

東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻看護学コース

年報

2016 年度（平成 28 年度）

Annual Report of
Course of Nursing, Health Sciences,
Tohoku University School of Medicine
2016

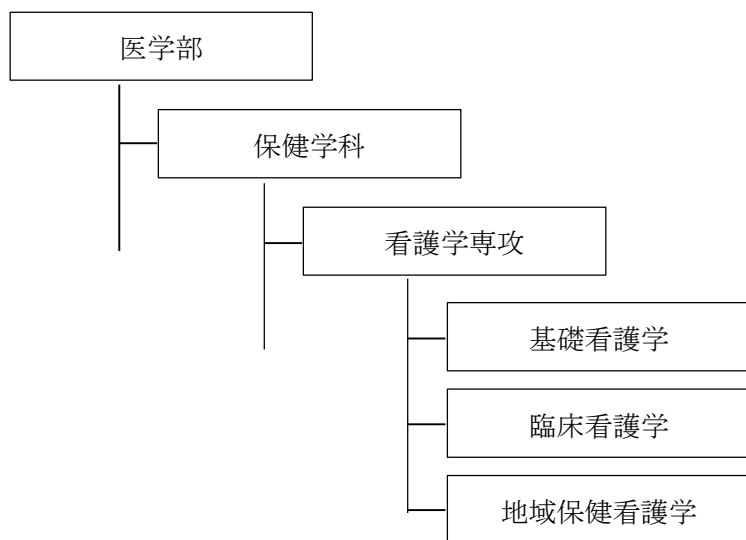
目次

1. 組織と分野	2
1-1. 組織図	2
1-2. 分野紹介	3
2. カリキュラム	16
2-1. 学部カリキュラム	16
2-2. 大学院カリキュラム	17
3. 教員一覧	19
4. 各種データ	21
4-1. 学部入試情報	21
4-2. 大学院入試情報	22
4-3. 学部卒業後の進路	23
4-4. 大学院修了後の進路	24
4-5. 大学院修了者の学位論文一覧	26
4-6. 業績数の推移	31
5. 研究業績	32
5-1. 原著論文・総説（査読あり）	32
5-2. 原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説	36
5-3. 著書	38
5-4. 国際学会発表	39
5-5. 国内学会発表	40
5-6. 外部資金獲得（主任研究）	48
5-7. 外部資金獲得（分担研究）	49
5-8. 外部資金獲得（その他）	50

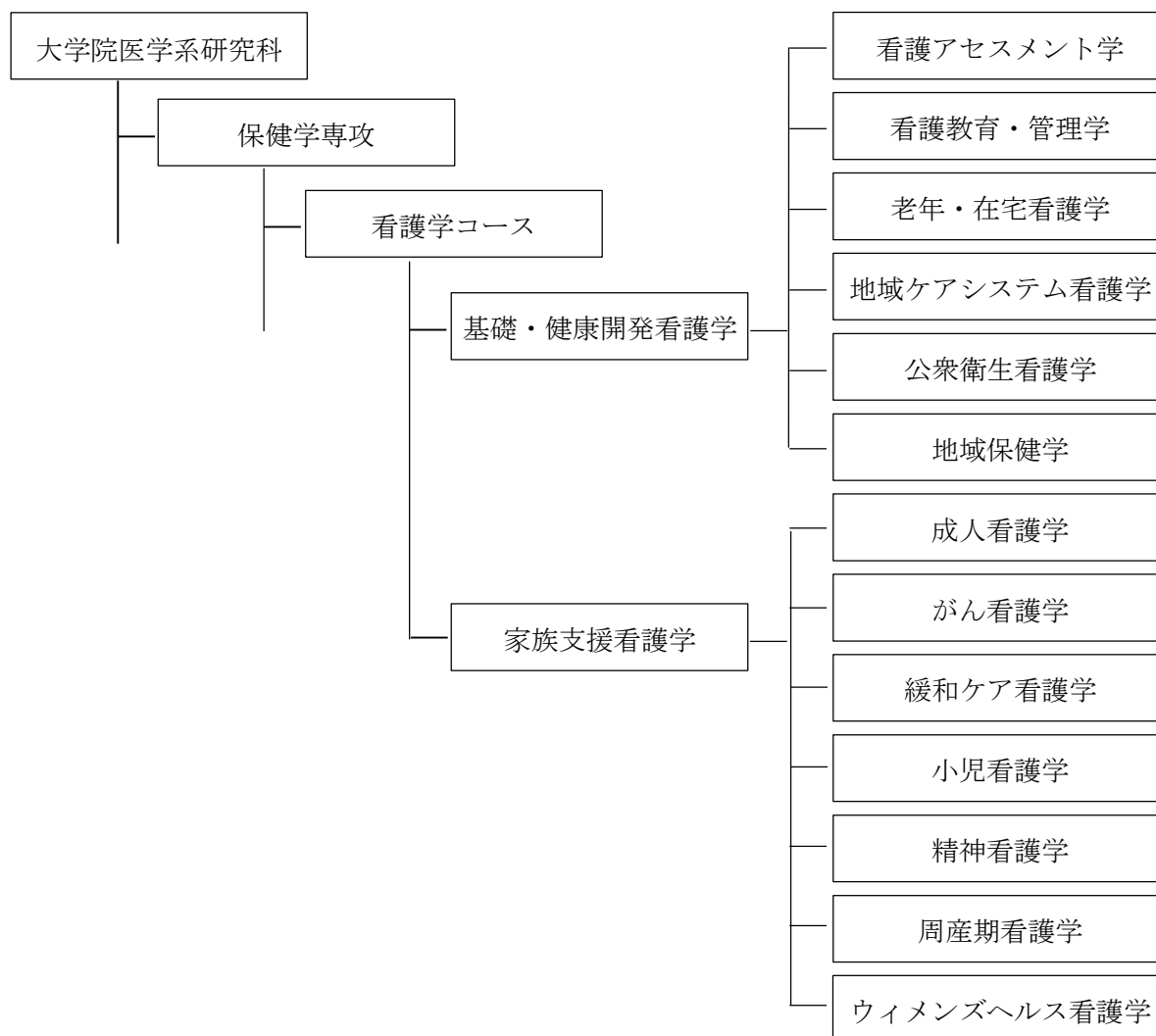
1. 組織と分野

1-1. 組織図（2016 年 4 月現在）

【医学部保健学科組織図】



【大学院医学系研究科保健学専攻組織図】



1-2. 分野紹介

研究分野名	看護アセスメント学分野
-------	-------------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:丸山良子、講師:菅野恵美、助教:丹野寛大
大学院(博士課程) 1 名、大学院(修士課程) 2 名、卒業研究生 14 名、研究生 1 名

2. 主な研究テーマ

看護アセスメント学分野では、看護の対象となる人々への適切な日常生活援助を行うために必要なアセスメントの方法、さらに科学的根拠に基づく看護援助技術の開発およびその検証を行うことを目的としています。

【主な研究テーマ】

1. 生理学的指標を用いた看護技術やケアの検証
2. 性ホルモンと自律神経活動の関連性
3. 環境が生体に及ぼす影響
4. 免疫学的手法による皮膚創傷治癒過程に関する科学的実証

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- Kamakura M, Maruyama R. Elevated HbA1c Levels Are Associated with the Blunted Autonomic Response Assessed by Heart Rate Variability During Blood Volume Reduction. *Tohoku J Exp Med*. 2016;240(2):91-100.
- Bao S, Kanno E, Maruyama R. Blunted Autonomic Responses and Low-Grade Inflammation in Mongolian Adults Born at Low Birth Weight. *Tohoku J Exp Med*. 2016;240(2):171-79.
- Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Promotion of acute-phase skin wound healing by *Pseudomonas aeruginosa* C4-HSL. *Int Wound J*. 2016;13(6):1325-35.
- Kanno E, Tanno H, Suzuki A, Kamimatsuno R, Tachi M. Reconsideration of iodine in wound irrigation: the effects on *Pseudomonas aeruginosa* biofilm formation. *J Wound Care*. 2016;25(6):335-9.
- Tanno H, Kawakami K, Ritsu M, Kanno E, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Contribution of invariant natural killer T cells to skin wound healing. *Am J Pathol*. 2015;185(12):3248-57.
- Sasaki K, Maruyama R. Consciously Controlled Breathing Decreases the High-Frequency Component of Heart Rate Variability by Inhibiting Cardiac Parasympathetic Nerve Activity. *Tohoku J Exp Med*. 2014;233(3):155-63.
- Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Otomaru H, Hatanaka A, Sato S, Ishii K, Hayashi D, Shibuya N, Imai Y, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Neutrophil-derived tumor necrosis factor- α contributes to acute wound healing promoted by *N*-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. *J Dermatol Sci*. 2013;70(2):130-8.
- Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Tanno H, Toriyabe S, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Wound healing in skin promoted by inoculation with *P. aeruginosa* PAO1: the critical role of tumor necrosis factor- α secreted from infiltrating neutrophils. *Wound Repair Regen*. 2011;19(5):608-21.
- Kanno E, Toriyabe S, Zhang L, Imai Y, Tachi M. Biofilm formation on rat skin wounds by *P. aeruginosa* carrying the gene fluorescent protein gene. *Exp Dermatol*. 2010;19(2):154-6.
- Maruyama R. The effect of ambient particulate matter on cardiovascular responses. *Eurozoru Kenkyu*. 2008;23(3):187-192.

【主な著書】

- 松井憲子, 丸山良子. 術後患者のアセスメントと臨床判断. In: 丸山良子(編). 看護技術. 東京: メヂカルフレンド社; 2016. P. 67-74.
- 菅野恵美, 館正弘. 外用薬かドレッシング材かの判断のポイント. In: 宮地良樹(編). 外用薬の特性に基づいた褥瘡外用療法のキホン. 東京: 南山堂; 2016. p. 84-94.

研究分野名	看護教育・管理学分野
-------	------------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:朝倉京子、助手:原ゆかり、事務補佐員 0 名
 大学院(博士課程) 6 名、大学院(修士課程) 3 名、研究生 0 名、卒業研究生 4 名

2. 主な研究テーマ

1. 看護職の職業移動と心理社会的労働環境に関する研究
2. 看護現象のジェンダー分析に関する研究
3. 看護職の専門職的自律性、自律的な臨床判断、反省的思考に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- Asakura K, Satoh M, Watanabe I. The Development of the Attitude Toward Professional Autonomy Scale for Nurses in Japan. Psychol Rep. 2016;119(3):761-782.
- Satoh M, Watanabe I, Asakura K. Occupational commitment and job satisfaction mediate effort-reward imbalance and the intention to continue nursing. Jpn J Nurs Sci. 2016;14(1):49-60.
- 三浦恵美, 朝倉京子. 看護師長が認識する「サクセスフルな部署運営」. 日本看護管理学会誌. 2016;20(1),38-48.
- 下條祐也, 朝倉京子. 両立支援的組織文化が職務満足度, 組織コミットメント及び職業継続意思に及ぼす影響—妻/母親役割を担う看護職を対象とした分析—. 日本看護科学会誌.2016;36:51-59.
- 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵, 下條祐也. 日本語版職業コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌. 2015; 35: 63-71.
- Asakura T., Gee G. C, Asakura K. Assessing a culturally appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese Brazilians. International Journal of Cultural Studies. 2015; DOI:10.1080/17542863.2015.1074259
- 朝倉京子, 籠玲子. 中期キャリアにあるジェネラリスト・ナースの自律的な判断の様相. 日本看護科学会誌, 2013;33(4):43-52.
- Tei-Tominaga M, Asakura T, Asakura K. Stigma towards nurses with mental illnesses: a study of nurses and nurse managers in hospitals in Japan. Int J Ment Health Nurs. 2013;23(4):316-25.
- Asakura K, Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202.
- 籠玲子,朝倉京子.病院の外科病棟に勤務する看護師の役割認知とそれに関わる体験. 看護研究. 2008;41(1):61-72.

【主な受賞】

- Asakura K, Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202. (平成 23 年度東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門賞受賞)
- Shimojo Y, Asakura K, Satoh M, Watanabe I. Relationships between Work-family Organizational Culture, Organizational Commitment, and Intention to Stay in Japanese Registered Nurses. IOCH; Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep; Adelaide, Australia. (Student Award for the Best Poster 受賞)

研究分野名	老年・在宅看護学分野
-------	------------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:尾崎章子、助教:安藤千晶、助手:菱谷 怜
大学院(博士課程):1名

2. 主な研究テーマ

老年・在宅看護学分野では、超高齢社会を迎え、地域包括ケアが推進される中、人々が住み慣れた環境である在宅・施設・地域など、“生活の場”での看護を重視し、生活の場を志向した実践知の創出に取り組んでいます。

1. 在宅看護の提供基盤の強化に関する研究

:大学が運営する訪問看護ステーションの機能特性の明確化とモデル構築

2. 在宅看護技術の確立に関する研究

:在宅における死亡確認に関する看護プロトコルの開発

:訪問看護師が把握している在宅要介護高齢者の睡眠薬使用および副作用リスク

:フレイル高齢者における体温リズムに着目した睡眠マネジメントの開発

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・ Ohashi Y, Taguchi A, Omori J, Ozaki A: Cultural Capital. A Concept Analysis, Public Health Nursing, 2017; 34(4):380-387.
- ・ 金子智絵, 尾崎章子, 齋藤美華, 西崎未和:在宅認知症高齢者の家族介護者における性別による介護経験の男女差に関する文献検討, 日本在宅看護学会誌, 2017;5(2):44-52,2017.
- ・ 尾崎章子, 齋藤美華,東海林志保:老年看護学教育にライフヒストリー・インタビューをとりいれた学習成果. 東北大学医学部保健学科紀要. 2016;25(1):35-45.
- ・ 其田貴美枝, 尾崎章子, 西崎未和, 笠原康代, 御任充和子, 栗原好美:在宅看護学実習中における自転車事故およびヒヤリ・ハット事象, 日本交通心理学会第 81 回発表論文集, 2016; 25-28.
- ・ 西崎未和, 尾崎章子, 其田貴美枝, 畑中晃子, 御任充和子, 山本由香, 新井由希子:看護学基礎教育における退院支援実習の学習効果.日本在宅看護学会誌.2015;3(2):1-10.

【主な著書】

- ・ 尾崎章子:睡眠・休息の援助, 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 17 版. 東京: 医学書院; 2017. p 127-36.
- ・ 尾崎章子:訪問看護の制度と機能, In.河野あゆみ(編). 在宅看護論. 東京: メジカルフレンド社, 2016. p63-77.
- ・ 尾崎章子:睡眠障害／不眠にどう応えるか, 越前宏俊監修, 薬剤師継続学習通信教育講座, 15-22, 一般社団法人日本女性薬剤師会, 2014.

研究分野名	地域ケアシステム看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授(兼任):大森純子、講師:津野陽子、助手:松永篤志

大学院(博士課程)0 名、大学院(修士課程)0 名、卒業研究生 0 名 ※公衆衛生看護学分野と合同体制

2. 主な研究テーマ

本分野では、地域の健康・生活課題に対応できる協働の地域保健活動方法論に関する研究や被災地の住民・関係者と協働したコミュニティ再生のための研究に取り組んでいます。また、2014 年 4 月に開設した大学院保健師養成コースの教育・研究にも携わっており、今後その成果を検証していきたいと考えます。

【主な研究テーマ】

1. 地域の底力を高める「地域への愛着メソッド」の汎用性開発
2. 原子力災害リスクに対する備えの看護職間ネットワーク構築に関するエスノグラフィー
3. 市民と看護職のパートナーシップによる People-Centered Care の評価指標の開発
4. 保健師の基礎・現任教育のための放射線教育モデルの構築と検証
5. 地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発
6. 「健康経営」の枠組みに基づいた保険者・事業主のコラボヘルスによる健康課題の可視化に関する研究
7. 健康と生産性の最適化を目指す働き方モデルの構築
8. 災害被災地における地域見守り活動に関する研究
9. 震災被災高齢者の立ち直りに関する研究
10. 健康格差

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-48.
- ・Kawasaki C, Omori J, Ono W, Konishi E, Asahara K. Public Health Nurses' Experiences in Caring for the Fukushima Community in the Wake of the 2011 Fukushima Nuclear Accident. Public Health Nursing. 2016; 33(4):335-42.

【主な著書】

- ・大森純子. 第 4 章 知の創出と洗練—科学の実践としてのインタビュー, 齋藤清二, 山田富秋, 本山方子(編), 質的心理学フォーラム選書 1 インタビューという実践. 東京:新曜社, 63-80, 2014
- ・大森純子. (分担執筆)第Ⅵ章 保健師が担う政策化のプロセスと方法論, 星旦二, 麻原きよみ(編集). 東京:日本看護協会出版会, 122-127, 2014
- ・大森純子. 佐伯和子(編). 公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版; 2014.

【主な学会発表】

- ・Takanashi K, Kamei T, Hishinuma M, Omori J, Asahara K, Arimori N, Shimpuku Y, Tashiro J, Ohashi K. Concepts of a People-Centered Care Model Based on Shared Partnerships between Community People and Health Care Professionals in the Unprecedented Japanese Aging Society. 11th Biennial Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery; 2016 Jul 28-29; Glasgow.
- ・Asahara K, Kobayashi M, Konishi E, Anzai Y, Miyazaki M, Miyazaki T, Omori J, Ono W, Mitsumori Y, Nagai T. Development of public health nursing ethics education for nursing students. The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conference; 2016 Sep 19-20; Billund.
- ・永田智子, 松永篤志. 被災自治体において仮設住宅に居住する高齢者とそれ以外の高齢者の心理状態の比較. 第 75 回日本公衆衛生学会総会; 2016 Oct 26-28; 大阪

研究分野名	公衆衛生看護学分野
-------	-----------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:大森純子、准教授:田口敦子、助手:竹田香織、研究補佐員 2 名
大学院(博士課程) 5名、大学院(修士課程) 11名、卒業研究生 10名

2. 主な研究テーマ

米国の公衆衛生領域で主流となっている(CBPR:Community Based Participatory Research)という研究スタイルを用い、保健師など保健行政の関係職種や住民の方々と一緒に、「"地域への愛着"を育む健康増進プログラムの開発」、「近隣住民間の交流促進プログラムの開発」などに取り組み、個人変容と社会変容に参画しています。また、コミュニティの互助促進を含む、行政と住民ボランティアの効果的な協働方法を探索しています。

【主な研究テーマ】

1. 文化と健康観・ヘルスプロモーションに関する研究
2. 地域への愛着と健康に関するプログラム開発, 地域への愛着を育む方法論(メソッド)開発
3. コミュニティの互助促進に関する研究
4. 行政と住民ボランティアの効果的な協働方法および評価に関する研究
5. 地域保健をめぐる政治・行政に関する研究

3. 主な研究業績(2014 年 1 月以降) ※2014 年 1 月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・ 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-48.
- ・ 大森純子, 小林真朝, 小野若菜子, 麻原きよみ. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014; 40:105-11.
- ・ Taguchi A, Murayama H, Murashima S. Association between municipal health promotion volunteers' health literacy and their level of outreach activities in Japan. PLoS ONE, 2016; 11(10).
- ・ 酒井太一, 大森純子, 高橋和子, 他. 向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌, 2016; 63(11), 664-674.

【主な著書】

- ・ 大森純子. 神馬征峰, 大森純子, 宮本有紀(編). 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度②公衆衛生, 第2章 公衆衛生の活動対象, 東京:医学書院, 45-60, 2015.
- ・ 大森純子(分担執筆)鳩野洋子, 島田美喜(編)公衆衛生実践キーワード, 地域保健活動の今がわかる明日がみえる, 東京:医学書院, 2015.

【主な学会発表】

- ・ 田口敦子, 三笠幸恵, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 高橋和子, 酒井太一, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 齋藤美華, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第1報 プログラムの作成と実施. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
- ・ 酒井太一, 高橋和子, 三森寧子, 小林真朝, 齋藤美華, 三笠幸恵, 小野若菜子, 宮崎紀枝, 田口敦子, 安齋ひとみ, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第2報 量的データによる評価. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
- ・ 宮崎紀枝, 齋藤美華, 小野若菜子, 三森寧子, 酒井太一, 高橋和子, 小林真朝, 三笠幸恵, 田口敦子, 安齋ひとみ, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第3報 質的データによる評価. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京

研究分野名	地域保健学分野
-------	---------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授(兼任):宮下光令、講師:Cindy H Chiu、助教:渡邊智子
大学院(博士課程)0 名、大学院(修士課程)0 名、卒業研究生 3 名

2. 主な研究テーマ (※研究テーマは 2015 年現在のもの)

We are interested in conducting applied research to collect evidence for public health practice, especially in the field of global health.

Main research interests:

1. Global health security – surveillance and response to emerging and re-emerging diseases
2. Disaster mental health care using a positive psychology approach
3. Protection of humanitarian aid workers' physical security and psychological well-being

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

- Houatthongkham, S., Sithivong, N., Jennings, G., Phengxay, M., Teepruksa, P., Khamphaphongphane, B., Vongphrachanh, P., Southalack, K., Luo, D., **Chiu, C.** Trends in the incidence of acute watery diarrhoea in the Lao People's Democratic Republic, 2009–2013. *Western Pacific Surveillance and Response Journal*. 2016 Sep; 7(3): 1-9.
- **Chiu, C.**, Martin, C., Woldemichael, M., W/Selasie, G., Tareke, I., Luce, R., G/Libanos, G., Hunt, D., Bayleyegn, T., Addissie, A., Buttke, D., Bitew, A., Vagi, S., Murphy, M., Seboxa, T., Jima, D., and Debella, A. Surveillance of a chronic liver disease of unidentified cause in a rural setting of Ethiopia: A case study. *Ethiopian Medical Journal*. 2016 Jan; 54(1): 27-32.
- Sengkeoprathuth, B., Bounma, K., Siamong, C., Datta, S., Khamphaphongphane, B., Vongphachanh, P., Luo, D., O'Reilly, M., **Chiu, C.** Hidden varicella outbreak, Luang Prabang Province, Lao People's Democratic Republic, December 2014 – January 2015. *Western Pacific Surveillance and Response Journal*. 2016 Jan; 7(1): 1-5.
- **Chiu, C.**, Fernandez, M., Rull, M., Woodman, M. Health services interruption, preventable maternal and neonatal deaths, and low vaccination coverage in an affected rural community following the 2012 interethnic conflict, Rakhine State, Myanmar. *Conflict and Health*. *Accepted*.
- **Chiu, C.**, Lozier, M., Bayleyegn, T., Tait, K., Barreau, T., Copan, L., Roisman, R., Cohen, R., Smorodinsky, S., Kreutzer, R., Yip, F., and Wolkin, A. Geothermal gases – community experiences, perceptions and exposures in Northern California. *Journal of Environmental Health*. 2015 Dec; 78(5): 14-21.
- Shumate, A.M., Yard, E., Casey-Lockyer, M., Apostolou, A., Chan, M., Tan, C., Noe, R.S., Wolkin, A., for the **CDC Shelter Surveillance Working Group**. Effectiveness of Using Cellular Phones to Transmit Real-Time Shelter Morbidity Surveillance Data After Hurricane Sandy, New Jersey, October to November, 2012. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 2015 Dec 18; 0:1-4.
- **Chiu, C.**, Noe, R., Martin, J.P., Wolkin, A., and Vagi, S. The Use of Community Assessment for Public Health Emergency Response to Evaluate National Weather Service Warnings. *Bulletin of the American Meteorological Society*. 2014 Jan; 95(1): 18–21.
- **Chiu, C.**, Vagi, S., Martin, J.P., Wolkin, A., and Noe, R. Evaluation of the National Weather Service Extreme Cold Warning Experiment in North Dakota. *Weather, Climate, and Society*. 2014 Jan; 6(1): 22–31.
- **Chiu, C.**, Schnall, A., Mertzluft, C., Noe, R., Wolkin, A., Spears, J., Casey-Lockyer, M., and Vagi, S. Mortality from a tornado outbreak—Alabama, April 27, 2011. *Am J Public Health*. 2013 Aug; 103(8): e52-e58.
- **Centers for Disease Control and Prevention**. Tornado-Related Fatalities — Five States, Southeastern United States, April 25–28, 2011. *MMWR*. 2012 Jul 20; 61(28): 529-533.

研究分野名	成人看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:今谷 晃、講師:菊地史子、卒業研究生 2 名

2. 主な研究テーマ

1. 胃粘膜上皮細胞の分化制御と胃癌に関する研究
2. *Helicobacter pylori* に対する免疫応答に関する研究
3. 粘膜免疫応答による上皮細胞の細胞内シグナル伝達機構の解明
4. 上部消化管疾患と遺伝子多型に関する研究
5. 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーションに関する研究
6. 終末期リハビリテーションと患者・家族感情との関連に関する質的研究
7. 終末期リハビリテーションにおける看護職とリハビリテーション職の協働に関する研究
8. 看護師自身のケア評価とケア満足度に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な受賞】

- ・ 佐藤典子, 佐藤しのぶ, 菊地淳子, 齋藤明美, 菊池愛, 佐々木知子, 菊地史子,
緩和ケア病棟で終末期リハを行っている患者に関わる家族の思い,
第 15 回東北緩和医療研究会青森大会; 2011 Sept 23 ; 青森. (ベストプレゼンテーション賞)
- ・ 佐藤しのぶ, 穀田知秋, 菊池愛, 吉野恵美子, 佐藤典子, 齋藤明美, 畠山里恵, 菊地史子
緩和ケア病棟で終末期患者と家族に関わる看護師とリハビリテーションスタッフとの協働を考える,
第 18 回東北緩和医療研究会秋田大会; 2014 Oct 10; 秋田(研究奨励賞)

研究分野名	がん看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:佐藤富美子、講師:佐藤菜保子、助手:齋藤麻美
大学院(博士課程)4名、大学院(修士課程)0名、卒業研究生9名

2. 主な研究テーマ

がん看護学分野は、がんの罹患や治療によって影響を受けた個人や家族のクオリティ・オブ・ライフ(Quality of Life;QOL)に関する看護理論の開発をテーマに研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 乳がん患者の術後上肢機能障害予防改善に向けた介入効果に関する研究
2. 肺癌患者の治療に伴う QOL 維持向上に関する研究
3. 前立腺がん術後患者のテレナーシング介入効果に関する研究
4. がん治療を受ける患者の症状マネジメントに関する研究
5. がん患者および家族のストレスと看護介入に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・ Sato F, Arinaga Y, Sato N, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer at 1-year follow-upn: a prospective, controlled trial. Tohoku J Exp Med. 2016; 238:229-36.
- ・ Arinaga Y, Piller N, Sato F, How can we know the true magnitude of any breast cancer related lymphema if we do not know which is the true dominant arm?.Journal of lymphedema, 2016; 11(1),27-34.
- ・ Arinaga Y, Sato F, Piller N, Kakamu T, Kikuchi K, Ohtake T, Sakuyama A, Yotsumoto F, Hori T, Sato N, A 10 minute self-care program may reduce breast cancer-related lymphedema;a six-month prospective longitudinal comparative study.Lymphology,2016;49,93-106.
- ・ Sato N, Katayose Y, Motoi F, Nakagawa K, Sakata N, Kawaguchi K, Sato F, Unno M. Strategy of Symptom-Targeted Intervention Based on Patient Quality of Life at Three Months After Pancreatectomy. Pancreas 2016; 45(6):920-921.
- ・ Sato F, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer: a controlled trial. Tohoku J Exp Med. 2014; 232:115-22.
- ・ Sato N, Takagi K, Suzuki T, Miki Y, Tanaka S, Nagase S, Warita H, Fukudo S, Sato F, Sasano H, Ito K. Immunolocalization of corticotropin-releasing hormone (CRH) and its receptors (CRHR1 and CRHR2) in human endometrial carcinoma: CRHR1 as a potent prognostic factor. Int. J. Gynecol. Cancer 2014; 24(9):1549-1557.

【主な著書】

- ・ 佐藤富美子. がん手術後合併症の観察と看護,乳がん・婦人科がんの周術期ケア.神田清子・二渡玉江編, 成人看護技術-がん・ターミナルケア,東京,メジカルフレンド社;2015;112-21,130-39.
- ・ 佐藤富美子. 生殖系機能障害のある患者の看護・乳がん患者の看護・前立腺がん患者の看護・子宮がん患者の看護. In: 黒田裕子(編). 成人看護学第2版. 東京: 医学書院; 2013. p. 508-29.

【主な受賞】

- ・ 小室葉月,佐藤菜保子,佐々木彩加,鈴木直輝,鹿野理子,田中由佳里,山口(加畑)由美,金澤素,割田仁,青木正志, 福士審. コルチコトロピン放出ホルモン受容体 2 遺伝子における一塩基多型、ハプロタイプと過敏性腸症候群との関連. 第 22 回日本行動医学会;2015 Dec 16-17;仙台(最優秀演題賞)

研究分野名 緩和ケア看護学分野

1. 分野構成(2017年4月1日時点)

教授:宮下光令、助教:青山真帆、助手:五十嵐尚子 事務補佐員1名、研究補助員1名
大学院(博士課程)2名、大学院(修士課程)5名、卒業研究生5名

2. 主な研究テーマ

緩和ケア看護学分野は、「がん」などの疾病により身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を抱える患者さまやご家族の QOL (Quality of Life: 生活の質) を維持し向上させることにより、患者さまやご家族が苦痛なく安心して生活することを支えるための看護の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 進行がん患者、家族の QOL 向上に向けた支援方法の開発
2. 緩和ケアや終末期ケアの質の評価と実態調査
3. 緩和ケアや終末期ケアに関する卒前・卒後教育に関する研究
4. がん以外の疾患に対する緩和ケアや終末期ケアに関する研究

3. 主な研究業績(2009年10月以降) ※2009年10月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・ Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden. J Clin Oncol. 2015 Feb 1;33(4):357-63.
- ・ Miyashita M, Morita T, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. A nationwide survey of quality of end-of-life cancer care in designated cancer centers, inpatient palliative care units and home hospices in Japan: the J-HOPE study. J Pain Symptom Manage. 2015 Jul;50(1):38-47.e3.
- ・ Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Sasaki Y, Narabayashi M, Wada T, Matsubara M, Takigawa C, Shinjo T, Suga A, Inoue S, Ikenaga M, Kohara H, Tsuneto S, Shima Y. The independent validation of Japanese version of EORTC QLQ-C15-PAL for advanced cancer patients. J Pain Symptom Manage. 2015 May;49(5):953-9.
- ・ Miyashita M, Kawakami S, Kato D, Yamashita H, Igaki H, Nakano K, Kuroda Y, Nakagawa K. The importance of good death components among cancer patients, the general population, oncologists and oncology nurses in Japan: Patients prefer "fighting against cancer." Support Care Cancer. 2015 Jan;23(1):103-10.
- ・ Sato K, Shimizu M, Miyashita M. Which quality of life instruments are preferred by cancer patients in Japan? Comparison of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-C30, and the Functional Assessment of Cancer Therapy-General. Support Care Cancer. 2014;22(12):3135-41.
- ・ Sato K, Inoue Y, Umeda M, Ishigamori I, Igarashi A, Togashi S, Harada K, Miyashita M, Sakuma Y, Oki J, Yoshihara R, Eguchi K. A Japanese region-wide survey of the knowledge, difficulties, and self-reported palliative care practices among nurses. Jpn J Clin Oncol. 2014;44(8):718-28.
- ・ Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. Lancet Oncol. 2013;14(7):638-46.

【主な著書】

- ・ 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵, et al. In 宮下光令(編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学(6):緩和ケア 第2版. 大阪: メディカ出版; 2016. 310p

【主な受賞】

- ・ 青山真帆, 齊藤愛, 菅井真理, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 宗教的背景のある施設において患者の望ましい死の達成度が高い理由. 第21回日本緩和医療学会学術大会, 2016 June 16-18, 京都 (最優秀演題)

研究分野名

小児看護学分野

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:塩飽 仁、助手:入江亘、助手(兼):菅原明子

大学院(博士課程後期)2 名、大学院(博士課程前期)2 名、卒業研究生 4 名

2. 主な研究テーマ

小児看護学分野は、子どもと家族を発達上のライフイベントに応じて支援する看護を追求している分野です。特に子どもと家族を心理・社会的に支える看護の研究、教育、実践に力点を置き、東北大学病院との **unification** や、学校、地域、医療機関、他大学などとの連携のもとに活動しています。

我々の分野の研究、教育、実践のおもなテーマは以下の通りです。

1. 子どもと家族を心理・社会的に支える看護支援の開発
2. 神経症や軽度発達障害の子どもの療育支援と家族へのメンタルヘルスケア
3. 悪性疾患の子どもと家族のトータルケア

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・Nagoya Y, Miyashita M, Shiwaku H.:Pediatric Cancer Patients' Important End-of-Life Issues, Including Quality of Life: A Survey of Pediatric Oncologists and Nurses in Japan.J Palliat Med. 2016;20(5):487-493
- ・佐藤幸子, 塩飽 仁, 遠藤芳子ほか:子どもの情動調整と心身症状の関連. 小児保健研究 2016;75(3):343-349
- ・入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 相墨生恵:Functional Assessment of Chronic Illness Therapy -Spiritual Well-Being-Non-Illness(Facit-Sp-Non-Illness)日本語版の信頼性・妥当性の検証. 東北文化学園大学看護学科紀要 2016;5(1):5-8
- ・木村智一, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子, 横山千恵, 鈴木千鶴:児童養護施設の福祉職と施設長からみた児童養護施設で看護師と福祉職が一緒に働く利点. 北日本看護学会誌 2015;17(2):15-22
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 槌谷由美子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一. 看護師が抱く子どもの終末期ケアを行う上での障壁と困難. 日本小児看護学会誌 2014;23(3):49-55.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 木村智一. 治癒が難しい状況にあると告げられた小児がんの子どもの両親は治療方針に関する意思決定をどのように行ったのか. 北日本看護学会誌 2014;17(1):11-17.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子. 看取りの時期にある小児がんの子どもの親をケアする看護師が抱える葛藤. 日本小児看護学会誌. 2013;22(2):41-7.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地舘千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもの必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;8(1):38-49.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地舘千恵:遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもの支える家族に必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;(1): 50-8.
- ・入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 和田 雪. 小児がん患児の父親が患児とのかかわりに抱く思いー小児がん患児の父親とその他の長期入院を要する患児の父親の比較ー. 小児がん看護. 2012;7:28-38.

【主な著書】

- ・塩飽 仁, 井上由紀子. 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In:奈良間美保, 丸光恵(編). 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論. 東京: 医学書院; 2015. 481-514.
- ・塩飽 仁ほか. 第 8 章 トータルケア 心理面へのケア「総論」「時期別ケア;診断時の心理と看護, 再発時の支援」, 特別な配慮が必要な問題「ボディイメージの変化, 小児がんのサイコオンコロジー」. In: 丸 光恵, 石田也寸志(監). ココからはじめる小児がん看護. 東京: へるす出版; 2009. 250-74.

【主な受賞】

- ・佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽 仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. 日本看護学研究学会雑誌. 2011;34(4):23-31. (日本看護研究学会平成 24 年度奨励賞)
- ・高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽 仁. 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. 日本看護学研究学会雑誌. 2009;32(2):55-63. (日本看護研究学会平成 22 年度奨励賞)

研究分野名

精神看護学分野

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:吉井初美、助教:光永憲香

大学院(博士課程) 1 名、卒業研究生 6 名

2. 主な研究テーマ

精神看護学分野は、看護師を主とする職業人、精神障害者およびその家族のメンタルヘルスを支援することを目的とした研究に取り組んでいる。精神障害者に関しては、精神疾患の発症ないし再発予防やスティグマ対策などの研究を、家族に関しては、精神科以外の患者の家族に対する研究を行っている。

【主な研究テーマ】

1. 看護師のメンタルヘルス支援
2. 精神疾患の発症予防および再発予防の支援
3. 精神障害者に対するスティグマ対策
4. 家族のメンタルヘルス支援

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・ 松本和紀, 濱家由美子, 光永憲香, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 桂雅宏, 松岡洋夫. サイコーシス早期段階における CBT の活用. 精神神経学雑誌. 2013;115(4):390-98.
- ・ Yoshii H. Qualitative study of stigmatization of mental illness in the Japanese workplace: the experience of mentally disabled people. Health. 2013;5(9):1378-85.
- ・ 吉井初美, 北村信隆, 齋藤秀光, 赤澤宏平. 統合失調症患者の口腔衛生支援:レビュー. 総合病院精神医学. 2013;25:268-76.
- ・ Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Akazawa K. Schizophrenia knowledge and attitudes toward help-seeking among Japanese fathers and mothers of high school students. Health. 2013;5(3A):497-503.
- ・ Yoshii H, Watanabe Y, Mazumder AH, Kitamura H, Akazawa K. Stigma toward schizophrenia among parents of high school students. Global Journal of Health Science. 2013;5(6):46-53.
- ・ 齋藤秀光, 富永美弥, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 上埜高志, 島田 哲, 田島つかさ, 中保利通, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアにおける家族への精神的支援. 精神医学. 2012;54:419-426.
- ・ 吉井初美. 職場での精神障害者に対するスティグマ問題. 産業精神保健. 2012;20(2):135-141.
- ・ 齋 二美子. 精神科熟練看護師が捉えたうつ病患者に対する退院支援を判断するための患者の反応と介入過程. 日本精神保健看護学会誌. 2011;20(1):10-20.
- ・ 山口紗穂, 上埜高志, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 菊地紗耶, 齋 二美子, 加藤道代, 明城光三, 上原茂樹, 小野寺 弘. 妊産褥婦の心理社会的状態に関する研究—宮城県内の助産師外来利用者を対象にして—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20:81-89.

【主な著書】

- ・ 齋藤秀光. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2012 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2011. p. 153.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2011 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2010. p.151.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 石井厚(監修). 新版精神保健第 2 版. 東京: 医学出版社; 2010. p. 91-7.

【主な受賞】

- ・ 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 松本和紀, 松岡洋夫. 顕在発症後早期の psychosis に対する心理的アプローチ—個別的な早期支援プログラムの試み— 第 5 回日本統合失調症学会; 2010 Mar 26-27; 福岡.(奨励賞)

研究分野名	周産期看護学分野
-------	----------

1. 分野構成(2017年4月1日時点)

教授(兼任): 吉沢豊予子、准教授: 小山田信子、助教: 佐藤眞理
大学院(修士課程) 1名、卒業研究生 4名

2. 主な研究テーマ

周産期看護学分野は、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を含む次世代の育成に繋がる子育てなど、女性や家族の健康に関することを、その時代に応じつつ様々な価値観の変化に伴う問題解決に対して、周産期女性やご家族が安心して生活することを支えるための助産活動の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 周産期にある女性のメンタルヘルスケアに関する研究
2. 周産期医療体制の研究
3. 助産師の自立支援に必要な卒後教育体制に関する研究
4. 地方における看護・助産教育成立過程の研究
5. 学生の看護助産技術修得過程の研究
6. 災害後の母子保健活動に関する研究
7. 助産院における産後ケアに関する研究
8. 国際母子保健に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- Tsuchiya M, Aida J, Hagiwara Y, Sugawara Y, Tomata Y, Sato M, Watanabe T, Tomita H, Nemoto R, Watanabe M, Osaka K, Tsuji I. Panel study of periodontal disease and insomnia among Great East Japan Earthquake victims. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2015; 237(2):1-8. Total Pages: 8.
- Sato M, Fumi Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Experiences of Public Health Nurses in Remote Communities during the Great East Japan Earthquake. Health Emergency and Disaster Nursing. 2015; 2(1): 1-10. Online ISSN 2188-2061. Total Pages: 10
- 小山田信子, 高橋みや子. 明治期の宮城県における看護婦の教育制度と身分法の成立過程-県立宮城病院附属看護婦養成所開校までの背景-. 日本看護歴史学会誌. 2008; 21: 56-67.
- 小山田信子: 1890年に官立産婆学校が設置されるまでの東京における産婆教育, 日本助産学会誌, 2016. 30(1): 99-109
- 小山田信子, 佐藤眞理, 佐藤喜根子, 宮城県立産婆講習所の教育経過 - 東北大学における助産師教育のはじまり以前 -, 東北大学保健学科紀要. 2017. 26(1): 1-11
- Sato K, Oikawa M, Hiwatashi M, Sato M, Oyamada N. Relating to the mental health of women who were pregnant at the time of the Great East Japan earthquake: analysis from month 10 to month 48 after the earthquake. BioPsychoSocial Medicine. (2016) 10:22, DOI 10.1186/s13030-016-0072-6. 1-6.
- Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Horiguchi R, Tamaki R, Oshitani H, Yoshizawa T. Immediate Needs and Concerns among Pregnant Women during and after Typhoon Haiyan (Yolanda). PLOS Currents Disaster. January 25, 2016.

【主な受賞】

- 佐藤喜根子: 妊婦に対する温泉浴の安全性に検証, 般財団法人日本健康開発財団 最優秀賞 2015. 3.
- 小山田信子: 東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞受賞 2016. 3

研究分野名	ウィメンズヘルス看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2017 年 4 月 1 日時点)

教授:吉沢豊子、准教授:跡上富美、助教:中村康香、事務補佐員 2 名
大学院(博士後期課程)7 名、大学院(博士前期課程)3 名

2. 主な研究テーマ

女性の健康に係わることを広く研究し、一生涯にわたる女性の健康の向上およびQOLの向上を目指し、研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 生涯を通じた男性のケアの担い手としての発達支援方法に関する研究
2. 家族形成時期の coparenting に関する研究
3. 女性の妊孕力の認識に関する研究
4. 妊娠期女性の活動量と周産期アウトカムとの関連に関する研究
5. 就労妊婦に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・ 和田 彩, 中村康香, 跡上富美, 佐藤眞理, 吉沢豊子:就労妊婦の罪悪感:概念分析, 日本看護科学学会誌; 2016, 36, 213-219
- ・ 川尻舞衣子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子:妊婦の身体活動に対する認識と保健指導の実態、母性衛生; 2016, 57(2), 475-782
- ・ 中村康香, 伊藤直子, 川尻舞衣子, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊子:就労妊婦の就労日と休日における身体活動量と生活活動パターン, 日本母性看護学会誌; 2016, 16(1), 33-40
- ・ 山口典子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子:無精子症の診断を受けた時の思い〜精巣内精子採取術・顕微強化精巣内精子採取術を選択した男性の語りから〜, 日本母性看護学会誌; 2016, 16(1), 49-56
- ・ Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Committed to working for the community: experiences of a public health nurse in a remote area during the Great East Japan Earthquake. Health Care Women Int. 2015;36(11):1224-38.
- ・ 日下裕子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子. 婦人科がん手術後患者がリンパ浮腫予防教室後に抱く思い リンパ浮腫発症の可能性に直面して. 日本がん看護学会誌. 2015;29(1):5-13.
- ・ Nakamura Y, Takeishi Y, Ito N, Ito M, Atogami F, Yoshizawa T. Comfort with motherhood in late pregnancy facilitates maternal role attainment in early postpartum. Tohoku J Exp Med. 2015;235(1):53-9.

【主な著書】

- ・ 吉沢豊子, 中村康香, 他. In: 吉沢豊子・鈴木幸子(編).新訂第 4 版マタニティアセスメントガイド, 真興交易医書出版部, 2016.3
- ・ 新道幸恵(監). 吉沢豊子, 跡上富美, 中村康香(企画). メディカエクセレント DVD シリーズ手掌圧が見てわかる! [分娩介助技術]-分娩介助のポジショニングと可視化された手掌圧で技術の向上に役立つ. 大阪: メディカ出版; 2013.
- ・ 吉沢豊子, 跡上富美, 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 新藤幸恵, 遠藤俊子. 新体系看護学全書 母性看護学 1 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護. 東京: メヂカルフレンド社; 2012.

【主な受賞】

- ・ 山口典子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子, 第 10 回日本母性看護学会学術論文賞 2016
- ・ 中村康香. 平成 26 年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2015 Mar.
- ・ 武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. 第 6 回日本母性看護学会学術論文賞 2012.
- ・ 跡上富美. 平成 23 年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2012 Mar.

2. カリキュラム

2-1. 学部カリキュラム

【平成 29 年度 看護学専攻専門教育科目】

区 分			授 業 科 目	単位数		時間	開設年次・セメスター・時間数								備 考	
				必修	選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
							1	2	3	4	5	6	7	8		
専 門 基 礎 科 目	人間の理解科目	医療解剖学	2		60	30	30									
		生体機能学Ⅰ	1		30	30										
		生体機能学Ⅱ	1		30		30									
		代謝学	2		30		30									
		遺伝情報学 ※1		1	15								15			
		免疫学	2		30			30								
		発達心理学	1		15	15										
		生命倫理	1		15		15									
		病理学	2		30			30								
		病原微生物学	1		30	30										
		臨床薬理学	2		30				30							
		家族関係論	1		15			15								
		公衆衛生学	1		30				30							
	健康の支援科目	保健医療福祉行政論	2		30			30								
		国際保健学	1		15								15			
		食生活論	1		15			15								
		運動生活論	1		15				15							
		リハビリテーション学	1		15				15							
		看護情報演習	1		30					30						
		医療経済学		1	15								15			
		看護管理・政策論	2		30								30			
		看護教育学	1		15							15				
		放射線リスク科学		1	15			15								
	看護基幹科目	看護学原論Ⅰ	1		15	15										
		看護学原論Ⅱ	1		15		15									
		看護技術論Ⅰ	1		30			30								
		看護技術論Ⅱ	2		60			30	30							
		看護技術論Ⅲ	1		30					30						
		看護技術論Ⅳ	1		30					30						
		看護研究原論	1		30			30								
		基礎看護学実習Ⅰ	1		45		45									
		基礎看護学実習Ⅱ	2		90					90						
		成人看護学原論	1		15			15								
		成人看護方法論Ⅰ	2		60				60							
		成人看護方法論Ⅱ	2		60					60						
		成人看護学実習Ⅰ	3		135							135				
		成人看護学実習Ⅱ	3		135							135				
		老年看護学原論	1		15			15								
		老年看護方法論	2		60				60							
		老年看護学実習	3		135							135				
		小児看護学原論	1		15			15								
		小児看護方法論	2		60				30	30						
		小児看護学実習	3		135							135				
		精神看護学原論	1		15				15							
		精神看護方法論	2		60					60						
		精神看護学実習	3		135							135				
		女性健康科学原論	1		15				15							
		母性看護方法論	2		60					60						
		母性看護学実習	3		135							135				
		地域看護学原論	1		15			15								
		地域看護方法論	2		45				45							
		地域看護学実習	1		45					45						
		在宅看護論	1		30					30						
		緩和ケア看護論	1		15					15						
		看護展開科目	助産学原論 ※1		1	15					15					
			助産診断学 ※1		2	60						60				
			助産技術学 ※1		3	90						30	60			
			助産管理論 ※1		1	15								15		
			新生児看護論 ※1		1	30					30					
			助産学実習 ※1		8	360							180	180		
			総合科目	総合看護学実習	2		90					90				
				学術英語	1		15						15			
				チーム医療	1		15								15	
				卒業研究	4		120							120		

助産師の国家試験受験資格を希望する者は※1の科目は必修となる。													
---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

卒業要件：全学教育科目 41 単位、専門教育科目 87 単位（専門基礎科目 27 単位、専攻専門科目 60 単位）、合計 128 単位以上修得

※開設セメスター等に変更する場合もあるので、その年度の時間割やシラバスで確認してください。

2-2. 大学院カリキュラム

【平成 29 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、前期 2 年の課程）】

科目区分	授業科目	一般コース		代表教員	科目区分	授業科目	一般コース		代表教員	
		必修	選択				必修	選択		
共通選択科目	医療倫理学		1	浅井	看護学コース 基礎・健康開発看護学領域	看護アセスメント学特論Ⅰ		2	丸山	
	看護学研究方法論		2	吉沢		看護アセスメント学特論Ⅱ		2	丸山	
	看護学研究のための統計学		2	宮下		看護アセスメント学セミナー		4	丸山	
	看護倫理		2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅰ		2	朝倉	
	理論看護学アプローチ		2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅱ		2	朝倉	
	看護科学論Ⅰ		2	朝倉		看護教育・管理学特論セミナー		4	朝倉	
	医療教育論		2	小山田		老年・在宅看護学特論Ⅰ		2	尾崎	
	医療・看護政策論		2	大森		老年・在宅看護学特論Ⅱ		2	尾崎	
	がん科学		2	今谷		老年・在宅看護学セミナー		4	尾崎	
	がん診療トレーニング		2	今谷		地域ケアシステム看護学特論Ⅰ		2	大森	
	先端放射線科学概論		2	権田		地域ケアシステム看護学特論Ⅱ		2	大森	
	検査医科学概論		2	鈴木		地域ケアシステム看護学セミナー		4	大森	
	災害医学概論		2	張替		地域保健学セミナー		4	(兼)宮下	
	医用動物学		1	三好		公衆衛生看護学特論Ⅰ		2	大森	
特別研究科目	論文研究	1	0	各指導教授	(保健師必修科目)	公衆衛生看護学特論Ⅱ		2	大森	
	課題研究		5	各指導教員		公衆衛生看護学セミナー		4	大森	
							公衆衛生看護学原論		2	大森
							公衆衛生看護学活動論Ⅰ		2	田口
							公衆衛生看護学活動論Ⅱ		4	田口
							地域ケアシステム看護学活動論Ⅰ		4	津野
							地域ケアシステム看護学活動論Ⅱ		4	津野
							疫学		2	大森
							保健統計学		2	大森
							保健医療福祉行政特論		3	大森
							公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	田口
							公衆衛生看護学実習Ⅱ		2	田口
					地域ケアシステム看護学実習Ⅰ			3	津野	
					地域ケアシステム看護学実習Ⅱ			3	津野	
					(保健師選択科目)		公共哲学		2	菅原(真)
							社会システム論		2	徳川
環境保健論		2	大森							
災害メンタルヘルス論		2	富田[災害]							
科目区分	授業科目	一般コース		代表教員						
		必修	選択							
看護学コース 家族支援看護学領域						コンサルテーション論		2	塩飽	
						臨床薬理学		2	今谷	
						フィジカルアセスメント		2	佐藤(富)	
						病態生理学		2	塩飽	
						がん看護学特論Ⅰ		2	佐藤(富)	
						がん看護学特論Ⅱ		2	佐藤(富)	
						がん看護学セミナーⅠ		2	佐藤(富)	
						がん看護学セミナーⅡ		2	佐藤(富)	
						緩和ケア看護学特論Ⅰ		2	宮下	
						緩和ケア看護学特論Ⅱ		2	宮下	
						緩和ケアトレーニング		1	宮下	
						緩和ケア看護学セミナーⅠ		2	宮下	
						緩和ケア看護学セミナーⅡ		2	宮下	
						がん看護専門看護学実習Ⅰ	✓	2	佐藤(富)	
						がん看護専門看護学実習Ⅱ	✓	6	佐藤(富)	
						がん看護専門看護学実習Ⅲ	✓	2	宮下	
						小児看護学特論Ⅰ	✓	2	塩飽	
						小児看護学特論Ⅱ	✓	2	塩飽	
						小児看護学セミナーⅠ	✓	4	塩飽	
						小児看護学セミナーⅡ	✓	2	塩飽	
						小児看護学セミナーⅢ	✓	2	塩飽	
						小児専門看護学実習Ⅰ	✓	2	塩飽	
						小児専門看護学実習Ⅱ	✓	8	塩飽	
						リエゾン精神看護論	✓	2	吉井	
						家族のメンタルヘルス論	✓	2	吉井	
						精神保健看護学セミナー	✓	4	吉井	
						周産期看護学特論	✓	2	小山田	
						周産期メンタルヘルスケア論	✓	2	小山田	
						周産期看護学セミナー	✓	4	小山田	

【平成 29 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、後期 3 年の課程）】

科目区分		授業科目	必修	選択	代表教員	科目区分		授業科目	必修	選択	代表教員
共通科目	共通選択科目	健康科学論		2	高橋（和） 丸山 齋藤(春)	専門科目	看護学コース	基礎・健康開発看護学セミナーⅠ		2	丸山
					基礎・健康開発看護学セミナーⅡ				2	尾崎	
		看護科学論Ⅱ		2	朝倉			家族支援看護学セミナーⅠ		2	塩飽
		看護科学論Ⅲ		2	吉沢			家族支援看護学セミナーⅡ		2	吉沢
		分子医科学		2	林			基礎・健康開発看護学特論		2	丸山
		社会・環境医学		2	藤森			家族支援看護学特論		2	塩飽
特別研究科目		保健学論文研究	8		各指導教授						

3. 教員一覧（2017 年 4 月現在）

【基礎・健康開発看護学領域】

看護アセスメント学

教授	丸山良子	（看護師・保健師、博士（医学））
講師	菅野恵美	（看護師・保健師、博士（医学））
助教	丹野寛大	（看護師・保健師、博士（医科学））

看護管理学

教授	朝倉京子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助手	原ゆかり	（看護師・保健師、修士（看護学））

老年・在宅看護学

教授	尾崎章子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助教	安藤千晶	（看護師・保健師、博士（看護学））

地域ケアシステム看護学

教授(兼)	大森純子	（看護師・保健師、博士（看護学））
講師	津野陽子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助手	松永篤志	（看護師・保健師、修士（保健学））

公衆衛生看護学

教授	大森純子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助教	田口敦子	（看護師・保健師、博士（医学））
助手	竹田香織	（修士（法学））

地域保健学

教授(兼)	宮下光令	（看護師、保健師、博士（保健学））
講師	Cindy H Chiu	（博士）
助教	渡邊智子	（看護師、保健師、修士（国際学））

【家族支援看護学領域】

成人看護学

教授	今谷晃	（医師、博士（医学））
講師	菊地史子	（看護師、博士（障害科学））

がん看護学

教授	佐藤富美子	（看護師・保健師、博士（看護学））
講師	佐藤菜保子	（看護師、博士（医学））
助手	齋藤麻美	（看護師・保健師、学士（看護学））

緩和ケア看護学

教授	宮下光令	（看護師・保健師、博士（保健学））
助教	青山真帆	（看護師・保健師、助産師、博士（保健学））

小児看護学

教授	塩飽仁	（看護師・保健師、博士（医学））
助教	入江亘	（看護師・保健師、修士（看護学））
助手	菅原明子	（看護師・修士（看護学）） ※東北大学病院助手と兼務

精神看護学

教授	吉井初美	（看護師・精神保健福祉士、博士（医学））
----	------	----------------------

助教 光永憲香 (看護師・保健師、修士(看護学))

周産期看護学

教授(兼) 吉沢豊予子 (看護師・助産師、博士(看護学))

准教授 小山田信子 (看護師・助産師、修士(看護学))

助教 佐藤眞理 (看護師・助産師、博士(看護学))

ウィメンズヘルス看護学

教授 吉沢豊子 (看護師・助産師・保健師、博士(看護学))

准教授 跡上富美 (看護師・助産師・保健師、博士(健康科学))

助教 中村康香 (看護師・助産師・保健師、博士(看護学))

※学位の記載形式は、「学位(専攻分野)」で統一した

(例えば、実際に授与された学位は「博士(医学)」ではなく「医学博士」である場合がある)

4. 各種データ

4-1. 学部入試情報

【一般入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 16 年度入学試験（前期）	50	130	2.6 倍	54	51
平成 16 年度入学試験（後期）	20	140	7.0 倍	20 (1)	18
平成 17 年度入学試験（前期）	50	120	2.4 倍	56	53
平成 17 年度入学試験（後期）	20	110	5.5 倍	22	19
平成 18 年度入学試験（前期）	50	91	1.8 倍	56	51
平成 18 年度入学試験（後期）	20	108	5.4 倍	24 (2)	19
平成 19 年度入学試験（前期）	50	111	2.2 倍	56	52
平成 19 年度入学試験（後期）	20	88	4.4 倍	25 (1)	17
平成 20 年度入学試験	55	114	2.1 倍	56	53
平成 21 年度入学試験	55	123	2.2 倍	57	54
平成 22 年度入学試験	55	167	3.0 倍	56	52
平成 23 年度入学試験	55	156	2.8 倍	58	57
平成 24 年度入学試験	55	140	2.5 倍	56	53
平成 25 年度入学試験	55	134	2.4 倍	58	52
平成 26 年度入学試験	55	123	2.2 倍	60	55
平成 27 年度入学試験	55	153	2.8 倍	60	53
平成 28 年度入学試験	54	126	2.3 倍	58	55
平成 29 年度入学試験	54	138	2.6 倍	58	56

※「合格者」は追加合格者の人数を含まない、（ ）内は追加合格者の人数を示す

【AO 入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 20 年度入学試験 (AO)	15	55	3.7 倍	19	19
平成 21 年度入学試験 (AO)	15	43	2.9 倍	17	17
平成 22 年度入学試験 (AO)	15	54	3.6 倍	20	20
平成 23 年度入学試験 (AO)	15	49	3.3 倍	17	17
平成 24 年度入学試験 (AO)	15	57	3.8 倍	15	15
平成 25 年度入学試験 (AO)	15	35	2.3 倍	16	16
平成 26 年度入学試験 (AO)	15	34	2.3 倍	15	15
平成 27 年度入学試験 (AO)	15	40	2.7 倍	16	16
平成 28 年度入学試験 (AO)	16	35	2.2 倍	17	17
平成 29 年度入学試験 (AO)	16	30	1.9 倍	16	16

4-2. 大学院入試情報

【修士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者		
					全体	保健師 選択	専門看護師 コース
平成 20 年度入学試験	24	21	0.9 倍	17	17	－	1
平成 21 年度入学試験	24	13	0.5 倍	11	10	－	3
平成 22 年度入学試験	24	21	0.9 倍	16	14	－	3
平成 23 年度入学試験	24	15	0.6 倍	13	13	－	5
平成 24 年度入学試験	24	13	0.5 倍	12	11	－	3
平成 25 年度入学試験	24	11	0.5 倍	9	9	－	2
平成 26 年度入学試験	24	15	0.6 倍	11	11	1	4
平成 27 年度入学試験	24	22	0.9 倍	19	18	1	6
平成 28 年度入学試験	24	23	1.0 倍	13	13	5	1
平成 29 年度入学試験	24	19	0.8 倍	14	14	6	4

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

【博士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 22 年度入学試験	10	4	0.4 倍	4	4
平成 23 年度入学試験	10	5	0.5 倍	4	4
平成 24 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 25 年度入学試験	10	12	1.2 倍	10	8
平成 26 年度入学試験	10	6	0.6 倍	4	3
平成 27 年度入学試験	10	13	1.3 倍	10	10
平成 28 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 29 年度入学試験	10	10	1.0 倍	9	9

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

4-3. 学部卒業後の進路

【国家試験受験資格取得状況（新卒者）】

	保健師	助産師	看護師
平成 19 年度卒業	73	20	63
平成 20 年度卒業	76	15	66
平成 21 年度卒業	73	15	63
平成 22 年度卒業	80	16	70
平成 23 年度卒業	69	13	66
平成 24 年度卒業	73	15	71
平成 25 年度卒業	69	13	69
平成 26 年度卒業	76	13	76
平成 27 年度卒業	—	13	64
平成 28 年度卒業	—	13	64

※ 助産師コースは選抜制

【国家試験合格状況（新卒者+既卒者）】

	保健師			助産師			看護師		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成 19 年度施行	73	69	95%	20	19	95%	64	63	98%
平成 20 年度施行	77	77	100%	16	16	100%	67	65	97%
平成 21 年度施行	73	68	93%	15	8	53%	63	63	100%
平成 22 年度施行	81	79	98%	19	19	100%	70	70	100%
平成 23 年度施行	73	70	96%	13	13	100%	66	66	100%
平成 24 年度施行	75	74	99%	16	15	94%	71	68	96%
平成 25 年度施行	70	67	96%	14	12	86%	72	72	100%
平成 26 年度施行	78	78	100%	14	14	100%	76	75	99%
平成 27 年度施行	—	—	—	13	13	100%	66	65	99%
平成 28 年度施行	—	—	—	13	13	100%	66	65	99%

【学部卒業後の進路】

	卒業数	就職				進学		その他
		看護師	助産師	保健師	一般職	大学院	各種学校・大学等	
平成 19 年度卒業	73	35	14 (1)	8	1	8 (1)	5	3
平成 20 年度卒業	76	38	9	14	2	6	5	2
平成 21 年度卒業	73	45 (1)	8 (1)	8 (1)	2	9 (1)	2	1
平成 22 年度卒業	80	62 (11)	15 (11)	6	0	4	3	1
平成 23 年度卒業	69	44 (4)	12 (4)	12	1	1	1	2
平成 24 年度卒業	73	49 (3)	12 (3)	5	1	7	1	1
平成 25 年度卒業	69	42 (1)	11 (1)	9	0	8	0	0
平成 26 年度卒業	76	49	9	10	1	5	2	0
平成 27 年度卒業	65	40	10	—	0	10	2	3
平成 28 年度卒業	67	46	12	—	—	6	2	1

※ () は、重複してカウントした人数

4-4. 大学院修了後の進路

【修士課程】

	学位取得	博士課程 進学	大学教員	看護学校 教員	看護師・ 助産師	保健師	その他
平成 21 年度修了	8	1	1	0	5	0	1
平成 22 年度修了	10	1	1	0	6	2	0
平成 23 年度修了	13	2 (1)	2 (1)	1	6	2	1
平成 24 年度修了	16	2	0	0	11	1	2
平成 25 年度修了	9	2	0	0	6	0	1
平成 26 年度修了	11	0	2	0	7	0	1
平成 27 年度修了	11	2(1)	2(1)	0	6	2	0
平成 28 年度修了	19	2(2)	4(1)	0	11(1)	3	0

※ () は、重複してカウントした数

※ 社会人院生であった学生が博士課程に進学後も仕事を継続した場合は、就職者には含まなかった

【専門看護師取得状況】（認定数は 2017 年 3 月現在）

	がん看護専門看護師		小児看護専門看護師	
	修了数	認定数	修了数	認定数
平成 21 年度修了	0	—	—	—
平成 22 年度修了	2	2 (100%)	—	—
平成 23 年度修了	1	0 (0%)	—	—
平成 24 年度修了	2	2 (100%)	6	4 (67%)
平成 25 年度修了	2	2 (100%)	1	0 (0%)
平成 26 年度修了	0	—	2	2(100%)
平成 27 年度修了	2	2(100%)	2	0(0%)
平成 28 年度修了	3	—	2	1(50%)

※「修了者」は、専門看護師認定審査の受験資格を有する修了者の人数

※「認定数」は、専門看護師の認定審査に合格したものの人数

※ 専門看護師認定審査の有資格者のなかには、専門看護師の認定を希望しない者も含まれる

【博士課程】

	学位取得	教育機関・研究機関		看護師・助産師	保健師	その他
		大学教員	その他			
平成 24 年度修了	0	—	—	—	—	—
平成 25 年度修了	2	1	1	0	0	0
平成 26 年度修了	4	3	0	0	0	1
平成 27 年度修了	4	3	0	1	0	0
平成 28 年度修了	4	1	2	1	0	0

4-5. 大学院修了者の学位論文一覧（2016 年度修了者まで）

【修士課程】

平成 21 年度（2009 年度）

- ・ 鎌田美千代. 看護師の与薬業務における医療情報と医療行為の乖離の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 河村真人. 長野県佐久地域の 2008/09 シーズンにおける季節性インフルエンザ流行時での医療機関受診の検討. (丸山良子教授)
- ・ 佐々木康之輔. Evaluation of respiratory pattern on human heart rate variability (心拍変動における呼吸の評価). (丸山良子教授)
- ・ 庄司香織. エストロゲンと加齢が自律神経活動の調節に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 関智示. 褥瘡に出現する産褥早期の下肢浮腫の経時的変化と弾性ストッキングの効果に関する検討. (吉沢豊子教授)
- ・ 武石陽子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. (吉沢豊子教授)
- ・ 武田晶子. 子どもの病気のイメージと「自分の病気について知ること」の意識および保護者の意識の実態とそれらの関連. (塩飽仁教授)
- ・ 松井憲子. 敗血症と全身性炎症反応症候群患者の自律神経活動の変化について. (丸山良子教授)

平成 22 年度（2010 年度）

- ・ 青木咲奈枝. がん患者の外來放射線治療による有害事象の苦痛度とクオリティ・オブ・ライフの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 伊藤加奈子. 中堅保健師の OJT と実践コミュニティに関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 桂田かおり. 死産・新生児死亡を経験した父親の「子どもの死の実感プロセス」. (佐藤喜根子教授)
- ・ 鎌倉美穂. 貯血式自己血採血をモデルとした循環血液量減少が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 坂村佐知. 妊娠先行型結婚夫婦の関係性が養育環境に及ぼす影響—早産児を出産した女性を対象にして—. (吉沢豊子教授)
- ・ 佐々木理衣. 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気がかりとソーシャル・サポートの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 千葉春香. 出生体重が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 永井瑞希. 女子長距離選手における月経異常が自律神経系・心血管系・運動パフォーマンスに及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 芳賀麻有. 睡眠時姿勢特性と自律神経活動および呼吸機能との関連性の検討. (丸山良子教授)
- ・ 平尾由美子. 在宅療養高齢者の足爪白癬の罹患状況、管理の実態、および QOL への影響に関する研究. (川原礼子教授)

平成 23 年度（2011 年度）

- ・ 荒屋敷純子. 東日本大震災発生から一週間の看護職の労働実態～性別・婚姻が災害時の労働に与えた影響～. (吉沢豊子教授)
- ・ 井上芙蓉子. がん診療に携わる看護師の緩和ケアに関する知識・困難感・実践の実態と関連要因—日本の 4 地域全体を対象とした多施設調査—. (宮下光令教授)

- ・岡野恵. 小児病棟に勤務するチャイルドライフスペシャリストの役割と機能に関する研究～子ども中心の医療を推進するスペシャリストとは～. (平野かよ子教授)
- ・菊池綾子. 第2子誕生後2か月経過した男性の家族に対する意識. (佐藤喜根子教授)
- ・熊谷賀代. 正常新生児の生後1か月までの体重増減量と完全母乳育児継続の関連要因の明確化. (吉沢豊子教授)
- ・小松恵. 高齢者の看取りにおいて、訪問看護師が「よい」あるいは「心残り」と感じた背景の研究. (川原礼子教授)
- ・佐々木久美子. 産業看護職におけるCSR(企業の社会的責任)の認識プロセス. (末永カツ子教授)
- ・品川優理. 乳癌患者に対する喫煙の影響－乳癌細胞株とタバコ煙抽出物を用いた検討－. (丸山良子教授)
- ・高橋奈津子. 介護老人保健施設に入所している高齢者の下肢浮腫に関する調査－加齢、日常生活における影響因子、および利尿薬との関連性について－. (川原礼子教授)
- ・竹内真帆. Changes in the lower limb of patients before and after Gynecologic surgery including LND: implication for early lymphedema assessment (婦人科リンパ節廓清術後の下肢の変化－続発性リンパ浮腫の早期発見に向けて－). (吉沢豊子教授)
- ・丹治史也. Personality and All-cause, Cause-specific Mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study (パーソナリティと全死因、死因別死亡リスクに関する前向きコホート研究). (南優子教授)
- ・成沢香織. 外来で分子標的治療を受けているがん患者の症状体験とQOLの関連. (佐藤富美子教授)
- ・藪田歩. 統合失調症をもつ患者の家族心理教育の効果. (齋藤秀光教授)

平成24年度(2012年度)

- ・五十嵐美幸. がん患者の死亡場所に関連する要因 死亡票情報を用いた分析と都道府県別医療社会的指標を用いた分析. (川原礼子教授)
- ・石川涼. 知的障害を伴わない発達障害をもつ子どもの発見から就学における関係者の役割および連携に関する実態調査. (塩飽仁教授)
- ・烏日古木拉. 出生体重が血圧および自律神経活動に及ぼす影響 モンゴル族の若年成人を対象にした検証. (丸山良子教授)
- ・菅野雄介. 看護師による看取りのケアの質の評価尺度の信頼性・妥当性と関連要因の探索. (宮下光令教授)
- ・菊池笑加. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態 ー東日本大震災から1年4か月後の調査ー. (佐藤喜根子教授)
- ・日下由利子. 看護師と患児および保護者が認識する病名と病状説明時における看護師の対応についての実態調査. (塩飽仁教授)
- ・佐山恭子. 入院した子どものきょうだいと母親が評価するきょうだい自身の人格的成長に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・関貴子. 喫煙と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究. (南優子教授)
- ・高田望. 看護師の「集中治療室における積極的治療から看取りの医療」への意思決定参画に関する基礎的研究. (平野かよ子教授)
- ・千葉みゆき. 化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応に関連する要因の検討. (佐藤富美子教授)

- ・ 名古屋祐子. 遺族と医療者への面接から得られた看取りの時期にある小児がんの子どもと家族に必要な要素. (塩飽仁教授)
- ・ 納谷さくら. がん患者のオピオイドに対する懸念と疼痛コントロールの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 真溪淳子. アクションラーニングによる地域看護管理者研修の意義. (末永カツ子教授)
- ・ 三谷綾子. 青年期以降の胆道閉鎖症患者の QOL とレジリエンスの特徴に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・ 門間典子. 大学病院に勤務する中高年看護師の仕事継続要因の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 谷地舘千恵. 看護師が認識する子どものターミナルケアについてのインタビュー調査. (塩飽仁教授)

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 菅野喜久子. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究. (宮下光令教授)
- ・ 木村智一. 児童養護施設の福祉職, 施設長, 看護師がとらえている児童養護施設の看護師の現状と役割の実態調査. (塩飽仁教授)
- ・ 日下裕子. リンパ浮腫発症の可能性に直面した時に感じる不本意さと不確かさ—婦人科がんサバイバーの経験から—. (吉沢豊子教授)
- ・ 下條祐也. 妻・母親役割を担う看護職の職業継続意思に影響する要因の検討—両立支援的組織風土に注目して—. (朝倉京子教授)
- ・ 長坂沙紀. 高機能広汎性発達障害当事者がセルフアドボカシー活動を行うまでの体験. (末永カツ子教授)
- ・ 包薩日娜. Effect of low birth weight on inflammation biomarkers and autonomic function in healthy young adults (若年健常者における出生体重が炎症性マーカーおよび自律神経機能に及ぼす影響). (丸山良子教授)
- ・ 本田涼. 第2子が NICU に入院した母親の第1子への思いと対応. (佐藤喜根子教授)
- ・ 三滝亜弥. 産業看護職が体験するリアリティショックと対処に関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 横田則子. 外来で化学療法を受けるがん患者の埋め込み型中心静脈ポート留置部位と生活の支障との関連. (佐藤富美子教授)

平成 26 年度 (2014 年度)

- ・ 岩淵正博. 終末期医療に関する意思決定者の実態と受ける医療や Quality of Life への影響. (宮下光令教授)
- ・ 熊谷清美. メキシコにおける妊婦と子育て中の母親の愛着—接触行動との関連—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 坂田あゆみ. 産後4カ月の母親のソーシャルサポートに対する認識-被災地域の子育て環境から-. (佐藤喜根子教授)
- ・ 佐藤遙. 側臥位と自律神経活動および循環動態の性差について. (丸山良子教授)
- ・ 鈴木千鶴. 食物アレルギーの子どもをもつ母親の困難感と対処行動. (塩飽仁教授)
- ・ 高橋恵美子. 東日本大震災が不妊に悩む女性に及ぼした影響—ART を受けている女性の現状—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 長橋美栄子. 看護師免許を有する養護教諭と有しない養護教諭における業務上の困難感に関する研究. (齋藤秀光教授)

- ・ 三浦恵美. 看護師長が認識する **successful** な部署運営に関する研究. (朝倉京子教授)
- ・ 柳本千景. 外来化学療法を受けているがん患者の倦怠感マネジメントバリアに影響する要因の検討.
(佐藤富美子教授)
- ・ 吉田明莉. 無侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT) 受検者が妊娠中に抱いた思い. (吉沢豊子教授)
- ・ 横山千恵. 特別支援学校に勤務する看護師が役割を遂行するために必要な要素. (塩飽仁教授)

平成 27 年度 (2015 年度)

- ・ 菊池尚子. 切迫早産妊婦の安静治療による母児アウトカムへの影響. (吉沢豊子教授)
- ・ 杉山育子. 原発性悪性脳腫瘍患者における終末期ケアの質の評価：ホスピス・緩和ケア病棟での多施設遺族調査 (宮下光令教授)
- ・ 杉山祥子. 看護師の自律的な臨床判断が磨かれるありよう (朝倉京子教授)
- ・ 青砥恵美. 東北地方における看護師が実施する認知行動療法の実態に関する研究 (斎藤秀光教授)
- ・ 入江亘. 小児がんの子ども親が **Posttraumatic Growth** に至るプロセス (塩飽仁教授)
- ・ 和田彩. 就労妊婦の特性と妊娠アウトカムとの関連—内的特性に着目して— (吉沢豊子教授)
- ・ 佐藤恵. 帝王切開術で出産した女性の出産体験のとらえ方とそれに影響する要因—経膈分娩との比較 (佐藤喜根子教授)
- ・ 重野朋子. 宮城県内のがん診療連携拠点病院におけるがん疼痛に関する多施設調査—施設間差と疼痛緩和が不十分な患者への対応の検討— (宮下光令教授)
- ・ 菅原明子. 健康問題を持つ子供に対して看護師が実践している心理的ケアのプロセス (塩飽仁教授)
- ・ 瀧澤洋子. **Alcohol intake and breast cancer risk according to menopausal and hormone receptor status in Japanese women**(日本人女性における飲酒と閉経状況・ホルモン受容体別乳がんリスクとの関連) (南優子教授)
- ・ 根本裕美子. 東京電力福島第一原子力発電所事故における安定ヨウ素剤の国，県，市町村の対応の実際と今後の備え (末永カツ子教授)

平成 28 年度 (2016 年度)

- ・ 小野八千代. 中高年の女性看護師が職業を継続するために困難を乗り越えるプロセス (朝倉京子教授)
- ・ 亀井ひとみ. "看護師が後輩看護師を育成する態度の形成プロセス—中期キャリアにある看護師に注目して—" (朝倉京子教授)
- ・ 橋本恵子. 若年女性労働者の困難から回復する力 (レジリエンス) と心の健康の実態調査 (斎藤秀光教授)
- ・ 安部葉子. "助産師が捉えた特別養子縁組を選択し出産した女性—女性の理解と助産師の気持ちに焦点を当てて—" (佐藤喜根子教授)
- ・ 五十嵐尚子. がん患者の遺族における複雑性悲嘆のスクリーニング尺度である **Brief Greif Questionnaire (BGQ)** と **Inventory of Complicated Grief(ICG)** の比較 (宮下光令教授)
- ・ 原ゆかり. 看護職の専門職的自律性に対する態度と職業コミットメントの経年変化が離職意向に及ぼす影響の検討 (朝倉京子教授)

- ・ 及川真紀. 性・年齢階級別にみた家族との同居状況と心理的苦痛の関連：東北メディカル・メガバンク事業地域住民コホート調査（佐藤喜根子教授）
- ・ 大泉千賀子. 治療期膀胱癌患者の家族が認知する患者の症状・治療及び療養状況と家族の QOL（佐藤富美子教授）
- ・ 押切美佳. 臨床看護師の調査からみた小児集中治療室の看護の特徴と展望（塩飽仁教授）
- ・ 川尻舞衣子. 妊娠期における身体活動量の縦断的調査-リストバンド型三軸加速度計を用いて-（吉沢豊子教授）
- ・ 後藤清香. 小児がん患者の標準復学支援要領の試作と実行可能性の検証（塩飽仁教授）
- ・ 齊藤恵里子. "多職種協働による自発的な母子支援活動の効果ー震災を契機に立ち上がった子育てサロン活動からー"（佐藤喜根子教授）
- ・ 高橋紀子. がんの痛みの看護ケア実践尺度の開発と信頼性・妥当性の検討（宮下光令教授）
- ・ 千葉詩織. 進行がん患者のオピオイド服薬マネジメントと疼痛の関連（佐藤富美子教授）
- ・ 富澤あゆみ. 在宅療養支援診療所を利用する終末期がん患者の主介護者の介護負担感に関連する要因の検討（佐藤富美子教授）
- ・ 樋渡麻衣. "東日本大震災年に誕生した子を持つ父親の震災 5 年目の心身の健康状態と影響を及ぼした要因"（佐藤喜根子教授）
- ・ 柳澤萌美. "東日本大震災における 5 年間の心のケアニーズの変化ー支援者から捉えた住まうことに関連する心のケアニーズの変化パターンー"（大森純子教授）
- ・ 吉澤彩. 看護拠点を立ち上げた看護師による地域におけるケアの特徴（大森純子教授）
- ・ 吉田薫. がん家族歴と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究（大森純子教授）

【博士課程】

平成 25 年度（2013 年度）

- ・ 有永洋子. アロマセラピーと簡易エクササイズを用いたセルフケアプログラムによる乳がん治療関連リンパ浮腫管理に関する研究（佐藤富美子教授）
- ・ 清水恵. 受療行動調査におけるがん患者の療養生活の質の評価のための項目の適切性に関する研究（宮下光令教授）

平成 26 年度（2014 年度）

- ・ 阿部亜希子. 災害をきっかけとした保健師の創発的活動に関する研究ー東日本大震災時の保健師活動の分析を通してー.（佐藤喜根子教授）
- ・ 佐々木康之輔. 健康成人における左右側臥位時の心臓自律神経活動および循環動態の変化に関する基礎的検討.（丸山良子教授）
- ・ 佐藤眞理. エスノグラフィの分析を通して見えてくる被災した町の保健師の経験.（吉沢豊子教授）
- ・ 高橋葉子. 東日本大震災後における被災地看護師のメンタルヘルスー職場の被災による影響ー.（齋藤秀光教授）

平成 27 年度（2015 年度）

- ・井上由紀子. 病気や障害をもつ子供と養育者の意思尊重支援の現状と支援ツールの作成および支援ツールを活用した看護実践の有用性とその検証（塩飽仁教授）
- ・青山真帆. がん患者遺族の悲嘆・抑うつ・睡眠状態・飲酒行動の実態と関連要因（宮下光令教授）
- ・佐藤大介. 前立腺がん患者の術後合併症の増悪予防と QOL 向上を目的とした遠隔看護システムの効果（佐藤富美子教授）
- ・堀口雅美. 健康若年成人を対象とした食行動とストレス対処能力に関する研究（丸山良子教授）

平成 28 年度（2016 年度）

- ・鎌倉美穂. "循環血液量の増減に伴う心臓自律神経活動の変化と糖，脂質，炎症関連因子の影響—自己血採血と輸液療法をモデルとした検証—"（丸山良子教授）
- ・菅野雄介. わが国の急性期病院における認知症の整備体制に関する研究（宮下光令教授）
- ・名古屋祐子. 看護師による終末期小児がん患者と家族の QOL 代理評価尺度の開発と QOL 評価（塩飽仁教授）
- ・包薩日娜. "Ethnic Differences in the Effects of Birth Weight on Current Inflammation Biomarkers and Autonomic Function in Healthy Young Mongolian and Japanese Adults（出生体重が若年健常者の炎症性マーカーと自律神経機能に及ぼす影響—モンゴル族、日本人における比較検討）"（丸山良子教授）

4-6. 業績数の推移 (2016 年 12 月現在)

【業績数の推移】

	原著論文・総説 (査読あり)		原著論文・総説 (査読なし)、 紀要、解説	著書	国際学会 発表	国内学会 発表
	英文論文	和文論文				
平成 20 年 (2008 年)	4	11	20	9	3	44
平成 21 年 (2009 年)	7	6	13	6	8	56
平成 22 年 (2010 年)	20	11	23	6	17	114
平成 23 年 (2011 年)	17	14	24	10	10	84
平成 24 年 (2012 年)	30	22	17	9	22	89
平成 25 年 (2013 年)	24	25	27	9	13	115
平成 26 年 (2014 年)	29	16	30	16	19	112
平成 27 年 (2015 年)	39	28	30	12	23	131
平成 28 年 (2016 年)	56	19	30	13	24	122
合計	226	152	214	90	139	867

※ 大学院が設置された 2008 年以降のもの

※ 教員・学生が保健学専攻に所属している期間中に発表された業績のみを数えた

※ 査読のない原著論文は「原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説」に含めた

※ 重複カウントあり

【外部資金獲得の推移】

	新規研究費		継続研究費		その他 外部資金
	主任研究	分担研究	主任研究	分担研究	
平成 20 年度 (2008 年度)	11	6	4	2	0
平成 21 年度 (2009 年度)	8	9	10	6	0
平成 22 年度 (2010 年度)	11	7	11	14	3
平成 23 年度 (2011 年度)	14	5	14	13	1
平成 24 年度 (2012 年度)	20	13	19	11	3
平成 25 年度 (2013 年度)	19	23	22	18	0
平成 26 年度 (2014 年度)	9	5	24	30	0
平成 27 年度 (2015 年度)	14	1	13	18	3
平成 28 年度 (2016 年度)	20	8	14	10	0
合計	126	75	131	122	10

※ 大学院が設置された 2008 年 4 月以降のもの

※ 継続研究費は延数

5. 研究業績(2016年1月～2016年12月)

5-1. 原著論文・総説(査読あり)

【看護アセスメント学分野】

1. Kamakura M, Maruyama R. Elevated HbA1c Levels Are Associated with the Blunted Autonomic Response Assessed by Heart Rate Variability During Blood Volume Reduction. *Tohoku J Exp Med*. 2016;240(2):91-100.
2. Bao S, Kanno E, Maruyama R. Blunted Autonomic Responses and Low-Grade Inflammation in Mongolian Adults Born at Low Birth Weight. *Tohoku J Exp Med*. 2016;240(2):171-79.
3. Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Promotion of acute-phase skin wound healing by *Pseudomonas aeruginosa* C4-HSL. *Int Wound J*. 2016;13(6):1325-35.
4. Kanno E, Tanno H, Suzuki A, Kamimatsuno R, Tachi M. Reconsideration of iodine in wound irrigation: the effects on *Pseudomonas aeruginosa* biofilm formation. *J Wound Care*. 2016;25(6):335-9.
5. Ishikuri M, Gutierrez SR, Obama T, Watanabe I, Metoki H, Kikuya M, Kuriyama S, Maruyama R, Ohkubo T, Imai Y. Knowledge, Attitude, and Practice Toward Blood Pressure Measurement at Home Among Japanese Nurses. *Home Health Care*. 2016;34(4): 210-7.
6. Horiguchi M, Tanaka G, Ogasawara H, Maruyama R. Comparison of relationship between eating behavior and sense of coherence in Japan. *Social Behavior and Personality: an international Journal*. 2016;44(1): 45-58.
7. Mor V, Farnoud AM, Singh A, Rella A, Tanno H, Ishii K, Kawakami K, Sato T, Del Poeta M. Glucosylceramide Administration as a Vaccination Strategy in Mouse Models of *Cryptococcosis*. *PLoS One*. 2016;11(4): e0153853.

【看護管理学分野】

8. Asakura K, Satoh M, Watanabe I. The Development of the Attitude Toward Professional Autonomy Scale for Nurses in Japan. *Psychol Rep*. 2016;119(3):761-782.
9. Satoh M, Watanabe I, Asakura K. Occupational commitment and job satisfaction mediate effort-reward imbalance and the intention to continue nursing. *Jpn J Nurs Sci*. 2016;14(1):49-60.
10. 三浦恵美, 朝倉京子. 看護師長が認識する「サクセスフルな部署運営」. *日本看護管理学会誌*. 2016;20(1):38-48.
11. 下條祐也, 朝倉京子. 両立支援の組織文化が職務満足度, 組織コミットメント及び職業継続意思に及ぼす影響—妻/母親役割を担う看護職を対象とした分析—. *日本看護科学会誌*. 2016;36:51-59.

【老年・在宅看護学分野】

12. 其田貴美枝, 尾崎章子, 西崎未和, 笠原康代, 御任充和子, 栗原好美:在宅看護学実習中における自転車事故およびヒヤリ・ハット事象, *日本交通心理学会第81回発表論文集*, 2016; 25-28.

【地域ケアシステム看護学分野】

13. Kawasaki C, Omori J, Ono W, Konishi E, Asahara K. Public health nurses' experiences in caring for the Fukushima community in the wake of the 2011 Fukushima nuclear accident. *Public Health Nurs*. 2016;33(4):335-42.
14. Nagamine M, Harada N, Shigemura J, Dobashi K, Yoshiga M, Esaki N, Tanaka M, Kai M, Sensaki K, Tanichi M, Yoshino A, Shimizu K. The effects of living environment on disaster workers. *BMC Psych* 2016; 16(1):3585.
15. Shigemura J, Nagamine M, Harada N, Tanichi M, Shimizu K, Yoshino A. Peacekeepers deserve more mental

health research and care. *BJPsych Open* 2016;2,e3-45.

16. Shigemura J, Harada N, Yoshino A. Mental health support for healthcare workers after the Great East Japan Earthquake: five years on. *Nursing & Health Sciences*. 2016;18 1-3.
17. Tanisho Y, Shigemura J, Kubota K, Tanigawa T, Bromet EJ, Takahashi S, Matsuoka Y, Nishi D, Nagamine M, Harada N, Tanichi M, Smith AK, Takahashi Y, Shimizu K, Nomura S, Yoshino A. The longitudinal mental health impact of Fukushima nuclear disaster exposures and public criticism among power plant workers: the Fukushima NEWS Project study. *Psychol Med*. 2016; 46(15): 3117-3125.
18. 酒井太一, 太森純子, 高橋和子, 他. 向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発. *日本公衆衛生雑誌*, 2016; 63(11), 664-674.

【公衆衛生看護学分野】

19. Kawasaki C, Omori J, Ono W, Konishi E, Asahara K. Public Health Nurses' Experiences in Caring for the Fukushima Community in the Wake of the 2011 Fukushima Nuclear Accident. *Public Health Nurs*. 2016;33(4):335-42.
20. Kameoka J, Iwazaki J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Taguchi A, Nakamura Y, Ishii S, Kagaya Y. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan in the past ten years. *Nurse Educ Today*. 2016;38,138-143.
21. Taguchi A, Murayama H, Murashima S. Association between municipal health promotion volunteers' health literacy and their level of outreach activities in Japan. *PLoS ONE*, 2016;11(10).
22. Tanaka C, Naruse T, Taguchi A, Nagata S, Arimoto A, Ohashi Y, et al. Conformity to the neighborhood modifies the association between recreational walking and social norms among middle-aged Japanese people. *Japan Journal of Nursing Science*. 2016;13(4):451-65.
23. 酒井太一, 太森純子, 高橋和子, 他. 向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発. *日本公衆衛生雑誌*, 2016; 63(11), 664-674.
24. 田口敦子, 吉澤彩, 岩崎昭子, 鈴木順一郎, 永田智子. 人口の少ない地域における訪問看護ニーズの実態 —訪問看護を利用できない地域に居住する要介護者の実態に焦点を当てて—, *厚生*の指標. 2016;63(1):7-15.

【地域保健学分野】

25. **Chiu, C.**, Martin, C., Woldemichael, M., W/Selasie, G., Tareke, I., Luce, R., G/Libanos, G., Hunt, D., Bayleyegn, T., Addissie, A., Buttke, D., Bitew, A., Vagi, S., Murphy, M., Seboxa, T., Jima, D., and Debella, A. Surveillance of a chronic liver disease of unidentified cause in a rural setting of Ethiopia: A case study. *Ethiopian Medical Journal*. 2016 Jan; 54(1): 27-32.
26. **Chiu, C.**, Fernandez, M., Rull, M., Woodman, M. Health services interruption, preventable maternal and neonatal deaths, and low vaccination coverage in an affected rural community following the 2012 interethnic conflict, Rakhine State, Myanmar. *Conflict and Health*. *Accepted*.
27. Houatthongkham, S., Sithivong, N., Jennings, G., Phengxay, M., Teepruksa, P., Khamphaphongphane, B., Vongphrachanh, P., Southalack, K., Luo, D., **Chiu, C.** Trends in the incidence of acute watery diarrhoea in the Lao People's Democratic Republic, 2009–2013. *Western Pacific Surveillance and Response Journal*. 2016 Sep; 7(3): 1-9.

28. Sengkeopraseuth, B., Bounma, K., Siamong, C., Datta, S., Khamphaphongphane, B., Vongphachanh, P., Luo, D., O'Reilly, M., Chiu, C. Hidden varicella outbreak, Luang Prabang Province, Lao People's Democratic Republic, December 2014 – January 2015. *Western Pacific Surveillance and Response Journal*. 2016 Jan; 7(1): 1-5.

【がん看護学分野】

29. Arinaga Y, Sato F, Piller N, Kakamu T, Kikuchi K, Ohtake T, Sakuyama A, Yotsumoto F, Hori T, Sato N. A 10 minute self-care program may reduce breast cancer-related lymphedema;a six-month prospective longitudinal comparative study.*Lymphology*. 2016;49:93-106.
30. Arinaga Y, Piller N, Sato F. How can we know the true magnitude of any breast cancer related lymphema if we do not know which is the true dominant arm?*Journal of lymphedema*. 2016; 11(1):27-34.
31. Kameoka J, Iwazaki J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Taguchi A, Nakamura Y, Ishii S, Kagaya Y. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan in the past ten years. *Nurse Educ Today*. 2016; 38:138-43.
32. Komuro H, Sato N, Sasaki A, Suzuki N, Kano M, Tanaka Y, Yamaguchi-Kabata Y, Kanazawa M, Warita H, Aoki M, Fukudo S. Corticotropin-Releasing Hormone Receptor 2 Gene Variants in Irritable Bowel Syndrome. *PLoS ONE*. 2016; 11(1): e0147817. doi:10.1371/journal.pone.0147817.
33. Sasaki A, Sato N, Suzuki N, Kano M, Tanaka Y, Kanazawa M, Aoki M, Fukudo S. Associations between Single-Nucleotide Polymorphisms in Corticotropin-Releasing Hormone-Related Genes and Irritable Bowel Syndrome. *PLoS ONE*. 2016; 11(2): e0149322. doi:10.1371/journal.pone.0149322.
34. Sato F, Arinaga Y, Sato N, Ishida T, Ohuchi N. The Perioperative Educational Program for Improving Upper Arm Dysfunction in Patients with Breast Cancer at 1-Year Follow-Up: A Prospective, Controlled Trial. *Tohoku J. Exp. Med*. 2016; (238) 229-236.
35. 佐々木理衣, 佐藤菜保子, 佐藤富美子. 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者が気がかりとソーシャル・サポートの関連. *日本がん看護学会誌*, 2016;30(2):99-106.

【緩和ケア看護学分野】

36. 船水裕子, 安藤秀明, 宮下光令. 緩和ケア認定看護師の職務満足度およびバーンアウトの実態と関連要因. *Palliat Care Res*. 2016; 11(4): 274-81.
37. Amano K, Maeda I, Morita T, Okajima Y, Hama T, Aoyama M, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Eating-related distress and need for nutritional support of families of advanced cancer patients: A nationwide survey of bereaved family members. *J Cachexia Sarcopenia Muscle*. 2016 Dec;7(5):527-534. Epub 2016 Feb 15.
38. Maeda I, Miyashita M, Yamagishi A, Kinoshita H, Shirahige Y, Izumi N, Yamaguchi T, Igarashi M, Kato M, Morita T. Changes in relatives' perspectives on quality of death, quality of care, pain relief, and caregiving burden before and after a region-based palliative care intervention. *J Pain Symptom Manage*. 2016 Nov;52(5):637-45. doi: 10.1016/j.jpainsymman.2016.03.022. Epub: 2016 Sep 21.
39. Sato K, Miyashita M, Morita T, Tuneto S, Shima Y. End-of-life treatments in the last two weeks of life in palliative care units in Japan, 2005-2006: A nationwide retrospective cohort survey. *J Palliat Med*. 2016 Nov;19(11):1188-1196. Epub 2016 Jul 27.

40. Morita T, Naito SA, Aoyama M, Ogawa A, Aizawa I, Morooka R, Kawahara M, Kizawa Y, Shima Y, Tsuneto S, Miyashita M. Nationwide Japanese survey about deathbed visions: "My deceased mother took me to heaven". J Pain Symptom Manage. 2016 Nov;52(5):646-654.e5. doi: 10.1016/j.jpainsymman.2016.04.013. Epub 2016 Sep 19.
41. Mikan F, Wada M, Yamada M, Takahashi A, Onishi H, Ishida M, Sato K, Shimizu S, Matoba M, Miyashita M. The association between pain and quality of life for cancer patients in an outpatient clinic, an inpatient oncology ward and inpatient palliative care units. Am J Hosp Palliat Med. 2016 Sep;33(8):782-90.
42. Shirai Y, Miyashita M, Kawa M, Motokura T, Sano F, Fukuda T, Oshimi K, Kazuma K. Evaluation of care for leukemia and lymphoma patients during their last hospitalization from the perspective of the bereaved family. Leukemia Research. 2016 Aug; 47:93-9. doi: 10.1016/j.leukres.2016.05.016. Epub: 2016 May 25.
43. Ando M., Somchit S, Miyashita M, Jamjan L. The perception for Good Death of community dwelling Japanese and Thailand respondents. Asian/Pacific Island Nursing Journal, 2016 1(3), 91-96.
44. Kinoshita S, Miyashita M, Morita T, Sato K, Miyazaki T, Shoji A, Chiba Y, Tsuneto S, Shima Y. Changes in perceptions of opioids before and after admission to palliative care units in Japan: Results of a nationwide bereaved family member survey. Am J Hosp Palliat Med. 2016 Jun;33(5):431-8.
45. Shimizu M, Nishimura M, Ishii Y, Kuramochi M, Kakuta N, Miyashita M. Development and Validation of Scales for Attitudes, Self-Reported Practices, Difficulties and Knowledge among Home Care Nurses Providing Palliative Care. Eur J Oncol Nurs. 2016 Jun; 22:8-22.
46. Igarashi A, Miyashita M, Tatsuya M, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Sato K, Yamamoto-Mitani N. Association between bereaved families' sense of security and their experience of death in cancer patients: Cross-sectional population-based study. J Pain Symptom Manage. 2016 May;51(5):926-32.
47. Kinoshita K, Miyashita M, Morita T, Sato K, Shoji A, Chiba Y, Miyazaki T, Tsuneto S, Shima Y. Japanese Bereaved Family Members' Perspectives of Palliative Care Units and Palliative Care: J-HOPE Study Results. Am J Hosp Palliat Care. 2016 Jun;33(5):425-30.
48. Suzuki M, Deno M, Tashiro M, Asakage T, Takahashi K, Saito K, Busujima Y, Mori Y, Saito H, Ichikawa Y, Miyashita. Anxiety and depression in patients after surgery for head and neck cancer in Japan. Palliat Support Care. 2016 Jun;14(3):269-77.
49. Nagoya Y, Miyashita M, Shiwaku H.: Pediatric Cancer Patients' Important End-of-Life Issues, Including Quality of Life: A Survey of Pediatric Oncologists and Nurses in Japan. J Palliat Med. 2016;20(5):487-493
50. Kobayakawa M, Okamura H, Yamagishi A, Morita T, Kawagoe S, Shimizu M, Ozawa T, An E, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Family caregivers require mental health specialists for end-of-life psychosocial problems at home: a nation-wide survey in Japan. Psycho-Oncol. 2016 Jun;25(6):641-7.
51. 岩淵正博, 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 木下寛也. 終末期医療を患者・家族・医師の誰が主体となつて決定したかについての関連要因と主体の違いによる受ける医療や Quality of Life への影響の検討. Palliative Care Res. 2016;11(2):189-200.
52. 佐藤悠子, 藤森研司, 石川光一, 佐藤一樹, 石岡千加史, 宮下光令. ナショナルデータベースを用いた、がん患者の死亡2週間前の終末期医療の質の評価: サンプルングデータセットの活用とその限界. Palliat Care Res. 2016;11(2):156-65.

53. Shirai Y, Miyashita M, Kawa M, Motokura T, Sano F, Fukuda T, Oshimi K, Kazuma K. Evaluation of care for leukemia and lymphoma patients during their last hospitalization from the perspective of the bereaved family. Leuk Res. 2016 Aug; 47:93-9. doi: 10.1016/j.leukres.2016.05.016. Epub 2016 May 25.
54. Nakazawa Y, Kato M, Yoshida S, Miyashita M, Morita T, Kizawa Y. Population-based quality indicators for palliative care programs for cancer patients in Japan: A delphi Study. J Pain Symptom Manage. 2016 Apr;51(4):652-61.
55. Kameoka J, Iwazaki J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Taguchi A, Nakamura Y, Ishii S, Kagaya Y. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan in the past ten years. Nurse Educ Today. 2016 Mar; 38:138-43.
56. Mikoshiba N, Yamamoto-Mitani N, Sato K, Yaju Y, Miyashita M. Relationship between self-care and hand foot syndrome specific quality of life in cancer patients. Open J Nursing. 2016 Feb;6(2). DOI: 10.4236/ojn.2016.62011 Scientific Research
57. Akiyama M, Hirai K, Kakebayashi T, Morita T, Miyashita M, Takeuchi A, Yamagishi A, Kinoshita H, Shirahige Y, Eguchi K. The effects of community-wide dissemination of information on perceptions of palliative care, knowledge about opioids, and sense of security among cancer patients, their families, and the general public. Support Care Cancer. 2016 Jan;24(1):347-56.

【小児看護学分野】

58. Nagoya Y, Miyashita M, Shiwaku H.: Pediatric Cancer Patients' Important End-of-Life Issues, Including Quality of Life: A Survey of Pediatric Oncologists and Nurses in Japan.J Palliat Med. 2016;20(5):487-493
59. 佐藤幸子, 塩飽 仁, 遠藤芳子ほか: 子どもの情動調整と心身症状の関連. 小児保健研究. 2016;75(3):343-349

【精神看護学分野】

60. Yoshii H, Kikuchi F, Lin K, Jingge I, Akazawa K, Saito H. Mental health care for cancer patients, their families and nurses in China: A review. British Journal of Education, Society & Behavioural Science. 2016, 13(1): 1-14.
61. Yoshii H, Akazawa K, Saito H. Self-esteem, self-stigma, and stigmatization among people with mental illness in Japan who have work experience. Psychology, 2016, 7, 1174-1184.
62. Yoshii H, Shibata Y, Ooba Y, Kitamura N, Saito H. Consultations for hikikomori among parents of junior high school students. British Journal of Education, Society & Behavioural Science, 2016, 17(4): 1-10.
63. 光永憲香, 田代綾菜, 本間翠, 吉井初美. 統合失調症を有する人の就労継続を困難にする要因 -就労に関連して陰性感情が生じた状況に焦点を当てて-. 産業精神保健. 2016, 24(2):133-141.
64. 吉井初美. 精神障害者のセルフスティグマ低減を目的とした介入研究課題:レビュー. 日本精神保健看護学会. 2016, 25(1): 91-98.

【周産期看護学分野】

65. 小山田信子: 1890 年に官立産婆学校が設置されるまでの東京における産婆教育, 日本助産学会誌, 2016.30(1).99-109
66. 小山田信子: 宮城県における篤志看護婦人会活動の意義. 北日本看護学会誌.2016.18(2)5-15

67. Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Horiguchi R, Tamaki R, Oshitani H, Yoshizawa T. Immediate Needs and Concerns among Pregnant Women during and after Typhoon Haiyan (Yolanda). PLOS Currents Disaster. January 25, 2016
 68. Sato K, Oiakawa M, Hiwatashi M, Sato M, Oyamada N. Factors relating to the mental health of women who were pregnant at the time of the Great East Japan earthquake: analysis from month 10 to month 48 after the earthquake. BioPsychoSocial Medicine. (2016) 10-22, DOI 10.1186/s13030-016-0072-6. 1-6.
- 【ウィメンズヘルス看護学分野】
69. 和田 彩, 中村康香, 跡上富美, 佐藤眞理, 吉沢豊予子: 就労妊婦の罪悪感: 概念分析, 日本看護科学学会誌, 2016: 36: 213-219.
 70. 川尻舞衣子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子: 妊婦の身体活動に対する認識と保健指導の実態、母性衛生, 2016: 57(2):475-782
 71. 中村康香, 伊藤直子, 川尻舞衣子, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子: 就労妊婦の就労日と休日における身体活動量と生活活動パターン, 日本母性看護学会誌, 2016: 16(1): 33-40
 72. 山口典子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子: 無精子症の診断を受けた時の思い～精巣内精子採取術・顕微強化精巣内精子採取術を選択した男性の語りから～, 日本母性看護学会誌, 2016: 16(1): 49-56
 73. Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Horiguchi R, Tamaki R, Yoshizawa T, Oshitani H. Immediate Needs and Concerns among Pregnant Women During and after Typhoon Haiyan (Yolanda). PLOS Currents Disasters. 2016: 1: doi: 10.1371/currents.dis.29e4c0c810db47d7fd8d0d1fb782892c.
 74. Kameoka J, Iwazaki J, Takahashi F, Sato F, Sato K, Taguchi A, Nakamura Y, Ishii S, Kagaya Y. Number of papers published in English from the nursing departments of 42 national universities in Japan in the past ten years. Nurse Educ Today. 2016 : 38: 138-43.
 75. Mari Sato, Fumi Atogami, Yasuka Nakamura, Toyoko Yoshizawa: Experiences of public health nurses in remote communities during the Great East Japan Earthquake, Health Emergency and Disaster Nursing, 2016: 3(1):18-27.

5-2. 原著論文・総説(査読なし)、紀要、解説

【看護管理学分野】

1. 高田望, 朝倉京子, 杉山祥子. 看護職の専門職意識を構成する概念の検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2016;25(1): 47-57.

【老年・在宅看護学分野】

2. 尾崎章子: 高齢者の睡眠障害, 看護技術. 2016; 62(6):58-62.
3. 尾崎章子: 高齢者の睡眠のアセスメント, 看護技術. 2016; 62(6):63-68.
4. 尾崎章子: 入院中の高齢者への睡眠ケア, 看護技術. 2016; 62(6):69-73.
5. 尾崎章子: 地域保健領域での CBT-I の実践, 睡眠医療. 2016; 10(3):477-480.
6. 尾崎章子: 睡眠－「眠れていますか？」のひと言の意味するもの, 理学療法ジャーナル. 2016; 50(4):413-419.

【地域ケアシステム看護学分野】

7. 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華.

公衆衛生看護のための“地域への愛着”概念分析. 東北医学雑誌. 2016;128:92-93.

8. 田口敦子, 三笠幸恵, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 高橋和子, 酒井太一, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 齋藤美華, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第1報 プログラムの作成と実施. 東北医学雑誌. 2016;128:94.

【公衆衛生看護学分野】

9. 大橋由基, 新村 津代子, 有本 梓, 渡井 いずみ, 成瀬 昂, 田口 敦子, 永田 智子, 村嶋 幸代. 修士課程保健師コースにおける生活習慣病予防を目的とした地域診断・活動展開実習の事例 ―山間部の高塩分食・喫茶店のモーニング文化と保健師活動. 保健師ジャーナル. 2016;72(11):946-952.
10. 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”概念分析. 東北医学雑誌. 2016;128:92-93.
11. 田口敦子, 村山洋史, 宮尾智香子, 大澤吉子, 五坪千恵子. バランスよく食べて介護いらずの生活を！―彦根市における健康推進員主導の健康教室. 保健師ジャーナル. 2016;72(11):893-934.
12. 田口敦子, 三笠幸恵, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 高橋和子, 酒井太一, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 齋藤美華, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第1報 プログラムの作成と実施. 東北医学雑誌. 2016;128:94.

【がん看護学分野】

13. 佐藤富美子, 有永洋子. オーストラリア Flinders Medical Centre(FMC)における乳がん看護の視察報告 第一報:乳がん診断後の生活の再構築を促進する支援. 東北大学医学部保健学科紀要. 2016;25(1):1-7.
14. 有永洋子,佐藤富美子. オーストラリア Flinders Medical Centre(FMC)における乳がん看護の視察報告 第二報:乳がんリンパ浮腫ケア. 東北大学医学部保健学科紀要. 2016;25(1):9-15.

【緩和ケア看護学分野】

15. 高橋理智, 森田達也, 服部政治, 上野博司, 岡本禎晃, 伊勢雄也, 宮下光令, 細川豊史. 日本のがん疼痛とオピオイド量の真実. 第 2 回 世界各国と日本のオピオイド量に関する研究 日本のがん患者に使用されているオピオイドは本当に少ないのか. 緩和ケア 2016; 26(6): 445-51.
16. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第 14 回 オピオイドの種類によって効果と副作用は違うのか？モルヒネ・オキシコドン・ブプレノルフィン・フェンタニルの無作為化比較試験. オンコロジーナース. 2016; 10(2): 90-1.
17. 宮下光令. がん終末期医療の先進国比較 ICU 利用多い米、欧州は病院中心. MMJ. 2016; 12(5): 247-9.
18. 宮下光令. 研究成果の普及に力を入れる. 特集 よい論文とは？おもしろい論文とは？ 看護研究. 2016; 49(6): 498-502.
19. 高橋理智, 森田達也, 服部政治, 上野博司, 岡本禎晃, 伊勢雄也, 宮下光令, 細川豊史. 日本のがん疼痛とオピオイド量の真実. 第 1 回 日本と世界のオピオイド消費量. 緩和ケア 2016; 26(5): 367-74.
20. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第 13 回 在宅緩和ケアは入院に比べて生命予後を短くしないだけでなく、延長するかもしれない. オンコロジーナース. 2016; 9(7): 88-90.
21. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第 12 回 終末期の化学療法は患者の死亡直前の QOL を改善せず、全身状態(PS)がよい患者ではむしろ QOL を悪化させる. オンコロジーナース. 2016; 9(6): 85-6.

22. 宮下光令. 【重要テーマ別!緩和ケアの最新エビデンス】ケア提供体制 早期からの緩和ケアなど. オンコロジーナース. 2016;9(5):79-84.
23. 宮下光令. 【重要テーマ別!緩和ケアの最新エビデンス】エビデンスと看護ケア. オンコロジーナース. 2016;9(5):49-50.
24. 宮下光令. 注目!がん看護における最新エビデンス 第 11 回 持続的な深い鎮静は生命予後を短縮しない. オンコロジーナース. 2016;9(5):85-6.
25. 宮下光令. 注目!がん看護における最新エビデンス 第 10 回 終末期がん患者の呼吸困難に対する送風の効果. オンコロジーナース. 2016;9(4):46-7.
26. 宮下光令. 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE2 研究(多施設遺族調査からの学び)第 6 回 望ましい看護師のあり方. がん看護. 2016;21(3):363-8.
27. 宮下光令. プロフェッショナルが独断と偏見で選らぶ、いまのイチオシ 12 文献 いまのイチオシ 5 文献(緩和ケア編). プロフェッショナルがんナーシング. 2016;6(2):61-71.
28. 宮下光令. 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE2 研究(多施設遺族調査からの学び)第 5 回 遺族のつらさを和らげるために. がん看護. 2016;21(1):55-9.

【小児看護学分野】

29. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 相墨生恵: Functional Assessment of Chronic Illness Therapy - Spiritual Well-Being-Non-Illness(Facit-Sp-Non-Illness)日本語版の信頼性・妥当性の検証. 東北文化学園大学看護学科 紀要. 2016;5(1):5-8

【周産期看護学分野】

30. 小山田信子, 佐藤真理, 佐藤喜根子, 宮城県立産婆講習所の教育経過 ―東北大学における助産師教育のはじまり以前―, 東北大学保健学科紀要. 2016.26(1).1-11

5-3. 著書

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美, 館正弘. 外用薬かドレッシング材かの判断のポイント. In: 宮地良樹(編). 外用薬の特性に基づいた褥瘡外用療法のキホン. 東京: 南山堂; 2016. p. 84-94.
2. 菅野恵美, 館正弘. 創傷治癒過程. In: 竹末芳生, 藤野智子(編). 術後ケアとドレーン管理のすべて. 東京: 照林社; 2016. p. 62-66.
3. 松井憲子, 丸山良子. 術後患者のアセスメントと臨床判断. In: 丸山良子(編). 看護技術. 東京: メヂカルフレンド社; 2016. P. 67-74.
4. 佐々木康之輔, 丸山良子. 術後患者の早期離床に必要なアセスメントとは. In: 丸山良子(編). 看護技術. 東京: メヂカルフレンド社; 2016. P. 62-66.
5. 渡辺皓, 菅野恵美. 感覚器系. In: 渡辺皓(編). 新改訂 図解ワンポイント 解剖学. 東京: サイオ出版; 2016. P. 193-217.

【老年・在宅看護学分野】

6. 尾崎章子: 訪問看護の制度と機能, In.河野あゆみ(編). 在宅看護論. 東京: メヂカルフレンド社, 2016. p63-77.

【地域ケアシステム看護学分野】

7. Shigemura J, Harada N, Tanichi M, Nagamine M, Shimizu K, Yoshino A, Nuclear disaster, Robert Urasano, Textbook of Disaster Psychiatry 2nd Edition, 2016 Cambridge University Press.
8. 原田奈穂子. 惨事介入, 職場惨事即応アプローチレジリエンス・システム, ピースマインドイープ和訳監修, アマゾンデマンド 2016

【緩和ケア看護学分野】(2009 年 10 月以降)

9. 宮下光令(編著). ナーシング・グラフィカ 成人看護学 6 緩和ケア(第 2 版), メディカ出版, 2016.
10. 佐藤一樹. 第 5 章さまざまな状況での緩和ケア 5. 看取り. In: 森田達也, 木澤義之(監). 緩和ケアレジデントマニュアル. 東京: 医学書院; 2016.
11. 宮下光令, 今井涼生(分担執筆). データでみる日本の緩和ケアの現状. 志真泰夫. 恒藤暁. 細川豊史. 宮下光令. 山崎章郎(編). ホスピス緩和ケア白書 2016. 青海社. 64-89. 東京. 2016.

【精神看護学分野】

12. 斎藤秀光: てんかん. 石井厚監修, 新版精神保健 第 3 版, pp93-100, 医学出版社, 東京, 2016 年 3 月
13. 大熊輝雄, 松岡洋夫, 上埜高志, 斎藤秀光: 臨床脳波学(第 6 版). 医学書院, 東京, 2016 年 11 月

5-4. 国際学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Ishii K, Maruyama R, Tachi M. Lack of iNKT cells leads to persisted infiltration of neutrophils and delayed wound healing process in skin. 5th Congress of the World Union of Wound Healing Societies; 2016 September 25-29; Firenze, Italy.
2. Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Takagi N, Ishii K, Maruyama R, Tachi M. Invariant Natural Killer T cells: Roles in skin wound healing and potential clinical application. The 10th Congress of Chinese Tissue Repair Society; 2016 September 10-11; Fuzhou, China.
3. Bao S, Kanno E, Tanno H, Maruyama R. Low birth weight is a risk of hypertension for both healthy young Japanese men and women. Physiology; 2016 July 29-31; Dublin, Ireland.
4. Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Takagi N, Ishii K, Maruyama R, Tachi M. Invariant Natural Killer T cells: Roles in skin wound healing and potential clinical application. The 13th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery; 2016 May 15-17, Kanazawa, Japan.
5. Bao S, Kanno E, Tanno H, Maruyama R. Ethnic differences in effects of low birth weight on risk for hypertension among healthy young Japanese, Mongolian and Han Chinese volunteers. American Thoracic Society; 2016 May 13-18, San Francisco, USA.
6. Kamakura M, Yamada-Fujiwara M, Kanno E, Maruyama R. Comparison of the effects of a difference in blood donation experience on the autonomic response and cardiovascular dynamics during mild blood loss. American Thoracic Society; 2016 May 13-18, San Francisco, USA.

【看護管理学分野】

7. Asakura K, Tominaga M, Satoh M, Watanabe I, Hara Y, Asakura T. The relationship between Japanese nurses' intention to leave, sense of professional autonomy, and gender. 19th EAFONS; 2016 Mar 14-15; Chiba.

8. Asakura K, Tominaga M, Yukari Hara, Watanabe I, Satoh M, Asakura T. The interaction of occupational commitment and health indicators with nurses' intention to leave in Japan. 4th Well-being at work Conference; 2016 May 29-June 1 ;Amsterdam.
9. Tominaga M, Asakura K, Asakura T. Factors of happiness at work among staff nurses in hospital in Japan. 4th Well-being at work Conference; 2016 May 29-June 1 ;Amsterdam.
10. Tominaga M, Asakura K, Watanabe I, Satoh M, Hara Y, Asakura T. Factors of intention to leave among nurses classified by generation in Japan: A cross-sectional study using a large sample completed survey. 19th EAFONS; 2016 Mar 14-15; Chiba.

【地域ケアシステム看護学分野】

11. Asahara K, Kobayashi M, Konishi E, Anzai Y, Miyazaki M, Miyazaki T, Omori J, Ono W, Mitsumori Y, Nagai T. Development of public health nursing ethics education for nursing students. The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conference; 2016 Sep 19-20; Billund.
12. Takanashi K, Kamei T, Hishinuma M, Omori J, Asahara K, Arimori N, Shimpuku Y, Tashiro J, Ohashi K. Concepts of a People-Centered Care Model Based on Shared Partnerships between Community People and Health Care Professionals in the Unprecedented Japanese Aging Society. 11th Biennial Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery; 2016 Jul 28-29; Glasgow.
13. Shigemura J, Nagamine M, Tanichi M, Harada N, Shimizu K, Yoshino A: The psychological impacts of the Great East Japan Earthquake and the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident to the disaster workers: five years on. 22nd World Congress of the World Association of Social Psychiatry; 2016 Dec 2; New Delhi.

【公衆衛生看護学分野】

14. Asahara K, Kobayashi M, Konishi E, Anzai Y, Miyazaki M, Miyazaki T, Omori J, Ono W, Mitsumori Y, Nagai T. Development of public health nursing ethics education for nursing students. The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conference; 2016 Sep 19-20; Billund.
15. Takanashi K, Kamei T, Hishinuma M, Omori J, Asahara K, Arimori N, Shimpuku Y, Tashiro J, Ohashi K. Concepts of a People-Centered Care Model Based on Shared Partnerships between Community People and Health Care Professionals in the Unprecedented Japanese Aging Society, 11th Biennial Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery; 2016 Jul 28-29; Glasgow
16. Yamagata C, Fukahori H, Taguchi A, Matsumoto S, Kanno Y, Masuda N, Adachi M, Miyashita M. Development of a checklist for an integrated care pathway for end-of-life care in a private nursing home in Japan. 19th East Asia Forum of Nursing Scholars; 2016 Mar 14-15; Makuhari

【がん看護学分野】

17. Arinaga Y, Piller N, Sato F. The effect of perceived and measured limb dominance on Breast Cancer Related Lymphoedema: Its impact on accurate diagnosis and outcomes. In 2016 Asia Pacific Lymphology Conference; 2016 May 26-28; Darwin.
18. Arinaga Y, Piller N, Sato F, Hirakawa H, Ishida T, Kakamu T, Ohtake T, Kikuchi K, Sato-Tadano A, Watanabe G, Tada H, Miyashita M. The addition of a simple 10 minute self-care for breast cancer related lymphoedema improves hand volume and QOL: Results of a pilot randomized controlled. In 2016 Asia Pacific Lymphology Conference; 2016 May 26-28; Darwin.

【緩和ケア看護学分野】

19. Aoyama M, Sakaguchi Y, Morita T, Ogawa A, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Complicated grief, depression, sleeping disorders and alcohol consumption of bereaved families of cancer: a nationwide bereavement survey in Japan. 9th World Research Congress of the European Association for Palliative Care, 9-11 June 2016, Dublin, Ireland

【小児看護学分野】

20. Irie W, Shiwaku H, Suzuki Y, Inoue Y, Aizumi I: Reliability and Validity of the Japanese Version of Functional Assessment of Chronic Illness Therapy-Spiritual Well-Being-Non-Illness. 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars(EAFONS), 2016 Mar 13; Chiba, JPN

【精神看護学分野】

21. Yoshii H. The 12th Hebei Province Conference on Oncology, August 12-14, 2016, Hengshui City, Hebei Province, P. R. China. Invited lecture.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

22. Wada A, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Characteristics of working women who have pregnancy complications. The 19th EAFONS; 2016 Mar 14-15; Chiba
23. Kikuchi N, Nakamura Y, Takeishi Y, Ito N, Sakai Y, Yagimori Y, Sugiura M, Seki S, Kawajiri M, Atogami F, Yoshizawa T. The shift of psychological status for hospitalized pregnant women from hospitalization to discharge after delivery; using profile of mood states. The 19th EAFONS; 2016 Mar 14-15; Chiba
24. Nakamura Y, Takeishi Y, Kikuchi N, Ito N, Sakai Y, Yagimori Y, Sugiura M, Seki S, Kawajiri M, Atogami F, Yoshizawa T. The differences in physical activity by the activity restriction level of hospitalized pregnant women. The 19th EAFONS; 2016 Mar 14-15; Chiba

5-5. 国内学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Kamakura M, Yamada-Fujiwara M, Kanno E, Maruyama R. Evaluation of time-dependent changes in autonomic response and cardiovascular dynamics from a decrease to an increase in circulating blood volume. 第 93 回日本生理学会大会, 2016 Mar 22-24, 札幌.
2. Bao S, Kanno E, Tanno H, Maruyama R. Is there an effect of low birth weight on current low-grade inflammation, blood pressure, and autonomic function in healthy young Japanese adults? 第 93 回日本生理学会大会, 2016 Mar 22-24, 札幌.
3. Tanno H, Kanno E, Sato N, Masaki A, Ishii K, Kawakami K. Effect of iNKT cell deficiency on neutrophilic response during early phase of skin wound healing. 第 45 回日本免疫学会学術集会; 2016 Dec 5-7; 沖縄.
4. Sato N, Suzuki A, Kanno E, Tanno H, Masaki A, Ishii K, Hara H, Kawakami K. Defect of CARD9 leads to impaired wound healing in skin. 第 45 回日本免疫学会学術集会; 2016 Dec 5-7; 沖縄
5. Masaki A, Tanno H, Kanno E, Sato N, Ishii K, Kawakami K. Local activation of iNKT cells by α -Galactosylceramide accelerates skin wound healing. 第 45 回日本免疫学会学術集会; 2016 Dec 5-7; 沖縄.
6. 佐藤紀子, 菅野恵美, 丹野寛大, 正木愛梨, 高木尚之, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. マウス

- 皮膚創傷治癒過程における Mincle 遺伝子欠損の影響. 第 26 回日本創傷治癒学会; 2016 Dec 9-10; 東京.
7. 正木愛梨, 菅野恵美, 丹野寛大, 佐藤紀子, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程におけるインターフェロン- γ の影響に関する研究. 第 26 回日本創傷治癒学会; 2016 Dec 9-10; 東京.
 8. 丹野寛大, 川上和義, 菅野恵美, 今村彩乃, 佐藤紀子, 正木愛梨, 高木尚之, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. NKT 細胞の活性化が創傷治癒に与える影響— α -Galactosylceramide 創部投与による検証—. 第 26 回日本創傷治癒学会; 2016 Dec 9-10; 東京.
 9. 菅野恵美, 川上和義, 丹野寛大, 鈴木愛子, 佐藤紀子, 正木愛梨, 高木尚之, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程における CARD9 を介したシグナル伝達の影響. 第 26 回日本創傷治癒学会; 2016 Dec 9-10; 東京.

【看護管理学分野】

10. 朝倉京子, 高田望, 杉山祥子. 改めて看護師の専門職性と責任を問う—特定行為は、看護師の専門職性と責任に何をもたらすのか—. 第 42 回日本保健医療社会学会大会; 2016 May 14-15; 大阪.
11. 原 ゆかり, 朝倉 京子, 富永 真己. 西日本の A 系列病院における看護職の職業移動の実態—3 年間の縦断調査から—. 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京.
12. 菅野俊介, 朝倉京子, 高田望. 男性看護師の生存戦略—男性ならではの意識・行動・役割の様相—. 第 42 回日本保健医療社会学会大会; 2016 May 14-15; 大阪.
13. 佐藤 みほ, 渡邊 生恵, 朝倉 京子. 看護師の離職意向の形成から離職決断に至るプロセス. 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京.
14. 杉山 祥子, 朝倉 京子, 高田 望. 看護師の自律的な臨床判断が磨かれるありよう. 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京.
15. 富永 真己, 朝倉 京子. 病院の労働職場環境の改善の取り組みと組織特性に関する考察: 4 病院の看護部の事例検討より. 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京.

【老年・在宅看護学分野】

16. 其田貴美枝, 尾崎章子, 西崎未和, 笠原康代, 御任充和子, 栗原好美: 在宅看護学実習中における自転車事故およびヒヤリ・ハット事象, 日本交通心理学会 第 81 回鳥取大会, 2016 Jun 4, 鳥取.
17. 金子智絵, 尾崎章子, 齋藤美華, 西崎未和: 在宅認知症高齢者の家族介護者の介護経験の男女差に関する文献検討, 日本在宅看護学会第 6 回学術集会 2016 Nov 20, 東京
18. 尾崎章子: 睡眠からアプローチする健康づくりと認知症予防 高齢者における健康づくりと睡眠教育: 日本睡眠学会第 41 回定期学術集会シンポジウム, 2016 Jul 8, 東京.
19. 尾崎章子: 女性の不眠にどのように対処すべきか? 看護師の立場から: 日本睡眠学会第 41 回定期学術集会シンポジウム, 2016 Jul 8, 東京.

【地域ケアシステム看護学分野】

20. 大森純子, 田口敦子, 大橋由基, 柳澤萌美. 卒業研究に概念分析を適用することによる教育的効果. 第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
21. 酒井太一, 高橋和子, 三森寧子, 小林真朝, 齋藤美華, 三笠幸恵, 小野若菜子, 宮崎紀枝, 田口敦子, 安齋ひとみ, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第 2 報 量的データによる評価. 第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京

22. 田口敦子, 三笠幸恵, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 高橋和子, 酒井太一, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 齋藤美華, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第1報 プログラムの作成と実施. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
23. 永田智子, 松永篤志. 被災自治体において仮設住宅に居住する高齢者とそれ以外の高齢者の心理状態の比較. 第75回日本公衆衛生学会総会; 2016 Oct26-28; 大阪
24. 長峯正典, 中板育美, 重村淳, 谷知正章, 原田奈穂子, 小室葉月, 清水邦夫. 東北の被災3県及び埼玉県における保健師のメンタルヘルス調査. 第75回日本公衆衛生学会総会; 2016 Oct26-28; 大阪
25. 宮崎紀枝, 齋藤美華, 小野若菜子, 三森寧子, 酒井太一, 高橋和子, 小林真朝, 三笠幸恵, 田口敦子, 安齋ひとみ, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第3報 質的データによる評価. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
26. 柳澤萌美, 大橋由基, 田口敦子, 大森純子. “一次予防における環境”の概念分析. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京

【公衆衛生看護学分野】

27. 大森純子, 田口敦子, 大橋由基, 柳澤萌美. 卒業研究に概念分析を適用することによる教育的効果. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
28. 沖永美幸, 白川美弥子, 藤春千恵美, 佐伯由美, 矢津剛, 伊藤うらら, 田口敦子, 深堀浩樹, 山縣千尋, 菅野雄介, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けた教育プログラムの開発. 日本緩和医療学会; 2016 Jun17-18; 京都
29. 酒井太一, 高橋和子, 三森寧子, 小林真朝, 齋藤美華, 三笠幸恵, 小野若菜子, 宮崎紀枝, 田口敦子, 安齋ひとみ, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第2報 量的データによる評価. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
30. 佐藤日菜, 浦山美輪, 山内悦子, 深谷真理子, 田口敦子, 永田智子, 戸村ひかり, 鷺見尚己. 特定機能病院に勤務する外来看護師による在宅療養支援の実態(第2報)質問紙調査による支援状況の明確化. 日本地域看護学会 第19回学術集会; 2016 Aug26-27; 栃木
31. 関谷幸子, 五坪千恵子, 田口敦子, 山崎菜穂子, 村山洋史. 「食品摂取多様性」に焦点をあてた健康推進員主導の健康教室を実施して(第2報)～健康推進員の活動意識の変化～. 第46回滋賀県公衆衛生学会; 2016 Feb21; 滋賀
32. 田口敦子, 三笠幸恵, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 高橋和子, 酒井太一, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 齋藤美華, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第1報 プログラムの作成と実施. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
33. 田口敦子, 佐藤日菜, 浦山美輪, 山内悦子, 深谷真理子, 永田智子, 戸村ひかり, 鷺見尚己. 特定機能病院に勤務する外来看護師による在宅療養支援の実態(第1報)ヒアリング調査による支援内容の明確化. 日本地域看護学会 第19回学術集会; 2016 Aug26-27; 栃木
34. 西倉恵美, 五坪千恵子, 村山洋史, 菊池弘恵, 田口敦子. 「食品摂取多様性」に焦点をあてた健康推進員主導の健康教室を実施して(第1報)～参加者への効果～. 第46回滋賀県公衆衛生学会; 2016 Feb21; 滋賀
35. 宮尾智香子, 五坪千恵子, 田口敦子, 村山洋史. 健康推進員組織の維持・活性化を目指した研修会の効果. 第46回滋賀県公衆衛生学会; 2016 Feb21; 滋賀

36. 宮崎紀枝, 齋藤美華, 小野若菜子, 三森寧子, 酒井太一, 高橋和子, 小林真朝, 三笠幸恵, 田口敦子, 安齋ひとみ, 大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第3報 質的データによる評価. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京
37. 柳澤萌美, 大橋由基, 田口敦子, 大森純子. “一次予防における環境”の概念分析. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2016 Jan23-24; 東京

【がん看護学分野】

38. 小室葉月, 佐藤菜保子, 佐々木彩加, 鈴木直輝, 鹿野理子, 田中由佳里, 山口由美, 金澤素, 割田仁, 青木正志, 福土審. コルチコトロピン放出ホルモン受容体 1, 2 遺伝子における一塩基多型と過敏性腸症候群との関連. 第57回日本心身医学会総会・学術講演会; 2016 Jun 5; 仙台.
39. 佐藤菜保子, 片寄友, 元井冬彦, 中川圭, 坂田直昭, 川口桂, 海野倫明, 佐藤富美子. 膀胱癌患者の術後栄養状態とQOLの経時的評価. 第30回日本がん看護学会学術集会; 2016 Feb 20; 幕張.
40. 佐藤菜保子, 元井冬彦, 有明恭平, 川口桂, 水間正道, 林洋毅, 中川圭, 森川孝則, 宮武ミドリ, 片寄友, 佐藤富美子, 海野倫明. 腫瘍切除患者の術前から6ヶ月までのQuality of lifeの評価. 第54回日本癌治療学会; 2016 Oct 20-22; 横浜.
41. 佐藤富美子, 石田孝宣, 大内憲明. 術後3年までの肩関節可動域改善を目的とした教育介入の効果. 第24回日本乳癌学会学術総会; 2016 Jun 16-18; 東京.
42. 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 有永洋子. 乳がん術後3年の上肢機能障害と予測因子の検討. 第30回日本がん看護学会学術集会; 2016 Feb 20; 幕張.
43. 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 有永洋子. 初発乳がん患者の術後3年までのメンタルヘルスに関する経時的変化. 第13回日本乳癌学会東北地方会; 2016 Mar 5; 仙台.
44. 千葉詩織, 佐藤富美子. 造血幹細胞再移植が必要となった患者の危機回避に至った看護に関する一考察. 第20回東北緩和医療研究会; 2016 Oct 22; 山形.
45. 柳本千景, 佐藤富美子, 佐藤菜保子. 外来化学療法を受けているがん患者の倦怠感マネジメントバリアに影響する要因の検討. 第30回日本がん看護学会学術集会; 2016 Feb 20; 幕張.

【緩和ケア看護学分野】

46. 五十嵐尚子, 青山真帆, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究(J-HOPE3研究)の調査報告書の活用状況の実態. 第21回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
47. 中澤葉宇子, 加藤雅志, 宮下光令, 森田達也, 木澤義之. がん医療に携わる医療者の緩和ケアに関する知識・態度・困難感の変化に関する研究?がん対策基本計画策定前後比較結果?. 第21回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
48. 坂下明大, 森田達也, 青山真帆, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 3(J-HOPE3)～遺族からみた研究プライオリティに関する研究～. 第21回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
49. 北得美佐子, 水雲京, 石井京子, 月山淑, 川股知之, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. ホスピス・緩和ケア病棟の遺族ケアに関する研究. 第21回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.

50. 北得美佐子, 水雲京, 石井京子, 月山淑, 川股知之, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. ホスピス・緩和ケア病棟の遺族ケアの改善点に関する研究. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
51. 青山真帆, 坂口幸弘, 小川朝生, 藤澤大介, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. がん患者遺族の複雑性悲嘆とうつの混合とその関連要因. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
52. 青山真帆, 坂口幸弘, 小川朝生, 藤澤大介, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. がん患者遺族の睡眠・飲酒の実態と悲嘆や抑うつとの関連. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
53. 山下亮子, 荒尾晴恵, 高尾鮎美, 升谷英子, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. 終末期がん患者の家族が患者の死を前提として行いたい事に関する研究?緩和ケア病棟を利用した遺族に対する調査より?. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
54. 関根龍一, 森田達也, 前田一石, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮越浩一, 宮下光令. 終末期がん患者へのリハビリテーションに関する家族の体験に関する研究. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
55. 宮下光令, 青山真帆, 佐藤一樹, 安部睦美, 首藤真理子, 岡本禎晃, 白土明美, 柳原一広, 山田祐司, 浜野淳, 森田達也. 遺族調査の回収率の向上を目指した 2×2×2 ランダム化要因デザイン試験. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
56. 宮下光令, 青山真帆, 塚田成美, 新山裕仁, 升川研人, 山田瀬奈, 渡部夏織, 佐藤一樹, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. J-HOPE3 研究の回収率に関わる要因. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
57. 菅野雄介, 野畑宏之, 岩田愛雄, 比嘉謙介, 佐山七生, 内村泰子, 大谷清子, 山中弘子, 豊永香奈, 宮下光令, 小川朝生. 全国のがん診療連携拠点病院における認知症ケア提供体制に関する実態. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
58. 佐藤一樹, 菊地亜里沙, 宮下光令, 森田達也, 木下寛也. 認知症高齢者の望ましい死の達成の遺族による評価とその関連要因. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
59. 佐藤一樹, 芹澤未有, 宮下光令, 森田達也, 木下寛也. 認知症高齢者の終末期介護体験の遺族による評価とその関連要因. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
60. 廣岡佳代, 大谷弘行, 三浦智史, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. 未成年の子どもを持つがん患者の遺族の体験とサポートニーズに関する調査: J-HOPE3. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
61. 小田切拓也, 森田達也, 青山真帆, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 緩和ケア病棟紹介時の家族の見捨てられ感の研究(J-HOPE 3). 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
62. 森雅紀, 吉田沙蘭, 塩崎麻里子, 馬場美華, 森田達也, 青山真帆, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 終末期がん患者の家族が「もっと話しておけばよかった」「もっとあれをしておけばよかった」と思う原因は何か?. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
63. 岸野恵, 木澤義之, 佐藤悠子, 宮下光令, 森田達也, 細川豊史. 大学病院入院中のがん患者のがんによる痛みの実態調査. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.

64. 首藤真理子, 森田達也, 青山真帆, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 最期の療養場所を決定するときに重要視した要因. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
65. 清水恵, 柳原一広, 青山真帆, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. がん患者の療養生活における意思決定に関する家族の困難感. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
66. 坂口幸弘, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. 日本人遺族における死後観と悲嘆、抑うつとの関連. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
67. 樫野香苗, 岩田広治, 山下年成, 新貝夫弥子, 向井末年子, 宮下光令, 明智龍男. 乳がん患者の再発不安尺度日本語版 Concerns about Recurrence Scale-Japanese(CARS-J)の信頼性・妥当性の検討. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
68. 佐竹宣明, 佐藤一樹, 中保利通, 井上彰, 宮下光令. 終末期がん患者を介護する家族の不安と抑うつの実態とその関連要因の検証に関する研究. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
69. 佐藤悠子, 石岡千加史, 藤森研司, 石川光一, 佐藤一樹, 宮下光令. DPC データを用いた DPC 算定病床におけるがん患者の緩和医療の質. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
70. 青山真帆, 齊藤愛, 菅井真理, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 宗教的背景のある施設において患者の望ましい死の達成度が高い理由. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
71. 羽多野裕, 青山真帆, 山口拓洋, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 傾向スコア法によって調整した最期の療養場所とクオリティ・オブ・ケア、クオリティ・オブ・デスとの関連: J-HOPE study 3. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
72. 大谷弘行, 森田達也, 吉田沙蘭, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. 家族が患者の臨終に間に合わないことは、その後の複雑性悲嘆につながるか?: J-HOPE3. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
73. 佐藤悠子, 宮下光令, 岸野恵, 木澤義之, 森田達也, 細川豊史. がん疼痛管理指標の開発. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
74. 重野朋子, 舘田綾子, 森田達也, 岸野恵, 木澤義之, 佐藤悠子, 佐藤一樹, 細川豊史, 宮下光令. 日本人におけるがん疼痛治療の個別化された目標 Personalized Pain Goal の検討. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
75. 重野朋子, 藤本亘史, 早坂利恵, 高橋寛名, 紺野志保, 菅野喜久子, 綱田友江, 佐藤悠子, 佐藤一樹, 細川豊史, 宮下光令. 宮城県内のがん診療連携拠点病院におけるがん疼痛に関する多施設調査-施設間差と疼痛緩和が不十分な患者への対応の検討-. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
76. 浜野淳, 森田達也, 福井小紀子, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令. 在宅がん患者の QOL に影響を与える医療者の関わり: J-HOPE3 附帯研究. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
77. 佐藤一樹, 橋本孝太郎, 宮下光令, 青山真帆, 鈴木雅夫. 在宅死亡患者の受けた終末期ケアの質、終末期の望ましい死の達成、終末期の介護体験の遺族評価と在宅診療要因との関連. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.

78. 大河弘子, 小松英樹, 秋山博実, 宮下光令. デスカンファレンスで語られた内容の分析. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
79. 宮下光令, 今井涼生, 佐藤一樹, 中澤葉字子, 木澤義之, 森田達也. がん診療連携拠点の緩和ケアチームの年間新規診療症例数の規定要因. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
80. 金澤麻衣子, 藤本亘史, 武田真恵, 畠山里恵, 杉山育子, 宮下光令, 井上彰. 苦痛のスクリーニングと乳がん看護外来の運用. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
81. 藤本亘史, 金澤麻衣子, 武田真恵, 畠山里恵, 杉山育子, 宮下光令, 井上彰. 東北大学病院の外来・入院がん患者に対する苦痛スクリーニングの実施までのプロセスと試行結果. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.
82. 沖永美幸, 白川美弥子, 藤春千恵美, 佐伯由美, 矢津剛, 伊藤うらら, 田口敦子, 深堀浩樹, 山縣千尋, 菅野雄介, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けた教育プログラムの開発. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 Jun 17-18, 京都.

【小児看護学分野】

83. 後藤清香, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 菅原明子, 井上由紀子: 小児がん患児の復学支援における時期別の目的と目標に関する文献検討. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016 Dec 16; 東京
84. 後藤清香, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 菅原明子: 自信喪失している注意欠陥多動性障害の児童に効果的だった看護支援の検討. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
85. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 親の性別が小児がんの子供の親における心的外傷後成長に至るプロセスに及ぼす影響. 第 58 回日本小児血液・がん学会学術集会, 2016 Dec 16; 東京
86. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 小児がんの子供の親における心的外傷後成長に関連する因子の構造. 第 29 回日本サイコオンコロジー学会総会大会, 2016 Sep 23; 札幌
87. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 菅原明子, 井上由紀子: 慢性疾患のある子供の親の心的外傷後ストレス症状と健康関連 QOL に就労が与える影響. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
88. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 重篤で長期管理を要する子供の親の心的外傷後成長と心的外傷後ストレス症状に関する父母間の関連. 日本家族看護学会第 23 回学術集会, 2016 Aug 29; 山形
89. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 菅原明子: 慢性疾患をもつ子どもの親の闘病体験が心的外傷後成長に及ぼす影響. 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 2016 Jul 23; 別府
90. 入江千恵, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 特別支援学校に勤務する看護師が役割を遂行するために実践している内容. 第 63 回日本小児保健協会学術集会, 2016 Jun 24; 大宮
91. 名古屋祐子, 塩飽 仁, 入江 亘: 終末期小児がん患者とその家族の QOL 代理評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検証. 第 14 回日本小児がん看護学会学術集会, 2016 Dec 17; 東京
92. 中川紗英, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 大学生が子供時代に抱いた病院に対するイメージとその形成に関わる要因. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
93. 及川詩織, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 大学生が過去に受けた喫煙防止教育と現在の喫煙に対する認識の関連. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
94. 押切美佳, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 菅原明子: 不登校となった中学生の自我同一性拡散とその支援の検討. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
95. 大鐘 葵, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 病気の子供とその家族のための滞在・宿泊施設を利用した家

族の意識に関する研究. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城

96. 佐々木美咲, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 親が病気になった場合の子供への病気説明に関する親自身の認識. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
97. 清水香織, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 菅原明子: 愛着障害が疑われる男児への看護支援の検討. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
98. 菅原明子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 入江 亘: 健康問題を持つ子供への心理的支援に対する看護師の思い. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
99. 菅原明子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 入江 亘: 健康問題を持つ子供に対して看護師が実践する心理的ケアに関するインタビュー調査. 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 2016 Jul 24; 別府
100. 杉浦 葵, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 大学生が認識する子供時代の教師との心理的距離および教師の勢力資源の関連. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城
101. 竹谷彩子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子: 福島県で遊びのボランティアを活用している子育て中の母親が抱える課題とボランティア活動に期待する内容に関する研究. 第 19 回北日本看護学会学術集会, 2016 Sep 11; 宮城

【精神看護学分野】

102. 吉井初美. 精神疾患を有する人々の口腔衛生とセルフケア. 日本有病者歯科医療学会総会・学術大会プログラム・抄録集. 2016, 113.

【周産期看護学分野】

103. 小山田信子. 明治期の産婆テキストからみた産婆活動. 第 30 回日本助産学会学術集会; 2016 Mar 19-20; 京都
104. 小山田信子. 大日本私立衛生会と看護婦養成. 日本科学史学会 75 周年記念第 63 回年会; 2016 May 28-29; 東京
105. 三ツ谷彩芽, 原田亜美, 佐藤真理, 小山田信子, 佐藤喜根子. 助産所の妊婦健診における助産師の関わり方の特徴. 第 19 回北日本看護学会学術集会; 2016 Sep 10-11; 宮城
106. 半澤杏奈, 佐藤真理, 小山田信子. 在日外国人女性が健康に妊娠期を過ごすにあたっての困難感とその対応にあたる医療職者の意識. 第 19 回北日本看護学会学術集会; 2016 Sep 10-11; 宮城
107. 原田亜美, 三ツ谷彩芽, 小山田信子, 佐藤真理, 佐藤喜根子. 女子大学生が女性の体やダイエットに関して女性雑誌から得られる情報. 第 19 回北日本看護学会学術集会; 2016 Sep 10-11; 宮城
108. 渡邊生恵, 佐藤真理, 中村康香. 健診受診歴からみる産後女性の健康管理の現状-エコチル調査宮城ユニットセンターにおける調査報告-. 第 57 回日本母性衛生学会総会学術集会. 15/10/2016.p212. 口演発表 P2-184
109. 佐藤真理, 渡邊生恵, 中村康香. 産後 1 ヶ月における母親の育児に対する意識と関連要因: エコチル調査宮城ユニットセンターにおける調査報告. 第 57 回日本母性衛生学会総会学術集会. 15/10/2016.p314. ポスター発表 p2-108
110. Aya WADA, Yasuka NAKAMURA, Fumi ATOGAMI, Mari SATO, Toyoko YOSHIKAWA. Working pregnant women's guilt feelings: scale development and measurement. (PC-10-11) 第 36 回日本看護科学学会学術集会(TOKYO). 2016. 12/10-11.
111. 小山田信子. 大日本私立衛生会による速成看護婦養成の意味. 第 36 回日本看護科学学会学術集会;

2016 Dec 10-11; 東京

【ウィメンズヘルス看護学分野】

112. Takeishi Y, Nakamura Y, Kawajiri M, Atogami F, Yoshizawa T. Change in antenatal specific comfort for hospitalized pregnant women. 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京
113. 川尻 舞衣子、中村 康香、伊藤 直子、武石 陽子、跡上富美、吉沢 豊予子. 妊娠中期の初産婦における日常生活の身体活動量. 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京
114. Wada A, Nakamura Y, Atogami F, Sato M, Yoshizawa T. Working pregnant women's guilt feelings: Scale development and measurement, 第 36 回日本看護科学学会学術集会; 2016 Dec 10-11; 東京
115. 須原涼子、跡上富美、中村康香、吉沢豊予子. 20 歳代未婚女性がとらえる自己の妊孕力の内容. 第 57 回母性衛生学会総会・学術集会; 2016 Oct 14-15; 東京
116. 坂村佐知、望月瑞希、中村康香、跡上富美、吉沢豊予子. 子どもの月齢別にみた父親の情緒応答性の測定. 第 57 回母性衛生学会総会・学術集会; 2016 Oct 14-15; 東京
117. 中村康香、上池那奈、跡上富美、吉沢豊予子. 妊娠期のセルフケア向上に役立つアプリの検討. 第 57 回母性衛生学会総会・学術集会; 2016 Oct 14-15; 東京
118. 佐藤真理、渡辺生恵、中村康香. 産後 1 か月における母親の育児に対する意識と関連要因: エコチル調査宮城ユニットセンターにおける調査報告. 第 57 回母性衛生学会総会・学術集会; 2016 Oct 14-15; 東京
119. 渡辺生恵、佐藤真理、中村康香. 健診受診歴から見る産後女性の健康管理の現状—エコチル調査宮城ユニットセンターにおける調査報告—. 第 57 回母性衛生学会総会・学術集会; 2016 Oct 14-15; 東京
120. 大月恵理子、林佳子、中村康香、成田伸、斎藤明香、高島えり子、平石皆子、林ひろみ、松原まなみ: 母体・胎児集中治療室(MFICU)看護職のための研修会の試行. 第 57 回母性衛生学会総会・学術集会; 2016 Oct 14-15; 東京
121. 武石陽子、中村康香、跡上富美、吉沢豊予子. 日本語版 Coparenting Relationship Scale の信頼性と妥当性の検証. 第 18 回日本母性看護学会学術集会; 2016 Jun 18; 福岡
122. 川尻舞衣子、中村康香、長坂桂子、武石陽子、跡上富美、吉沢豊予子. 妊婦の日常生活における身体活動の実態調査. 第 18 回日本母性看護学会学術集会; 2016 Jun 18; 福岡

5-6. 外部資金獲得(主任研究) ※2016 年 4 月～2017 年 3 月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美(主任研究者). 慢性創傷バイオフィルム誘導に関わるダメージ関連分子の解明と新規ケア技術の確立. 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2016 Apr - 2019 Mar.
2. 丸山良子(主任研究者). 心拍変動解析を用いた全身麻酔後の安全な早期離床の新たな評価指標の確立. 平成 27 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2015 Apr - 2018 Mar.
3. 丸山良子(主任研究者). 超高齢者の術後早期離床プログラムの開発. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2015 Apr - 2018 Mar.
4. 丹野寛大(主任研究者). バイオフィルム形成慢性創傷に対するリンパ球機能の解明と新規ケア技術への展開. 平成 27 年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援). 2015 Aug - 2017 Mar.

【看護管理学分野】

5. 高田望(主任研究者). 看護師の専門職意識を測定する尺度の開発と専門職意識の予測因子の解明(平成 27 年度科学研究費補助金若手研究(B)). 2015 Apr- 2018Mar.

【老年・在宅看護学分野】

6. 尾崎章子(主任研究者). フレイル高齢者における体温リズムに着目した睡眠マネジメントの開発と検証, 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究 B), 2016.Apr~2019.Mar
7. 尾崎章子(主任研究者). エンド・オブ・ライフケアにおける在宅・特養での死亡確認をめぐる問題の所在と検討, 科学研究費補助金(挑戦萌芽研究), 2016.Apr~2020.Mar

【地域ケアシステム看護学分野】

8. 松永篤志(主任研究者) 東日本大震災被災自治体の地域見守り活動対象者を把握するアセスメントツールの開発. 平成 28 年度 科学研究費補助金 研究活動スタート支援 2016 Apr- 2018 Mar

【公衆衛生看護学分野】

9. 田口敦子(主任研究者). コミュニティの互助促進に向けた行政育成型住民組織の効果的な活動モデルの開発. 平成 28 年度 科学研究費補助金(基盤研究(C))2016 Apr-2018 Mar
10. 大森純子(主任研究者). 地域の底力を高める「地域への愛着メソッド」の汎用性開発. 平成 27 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2015 Apr-2018 Mar.
11. 大森純子(主任研究者). 原子力災害リスクに対する備えの看護職間ネットワーク構築に関するエスノグラフィー. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究(B)). 2015 Apr-2017 Mar.

【地域保健学分野】

12. 青山真帆(主任研究者) 社会経済的地位ががん患者の QOL と遺族の精神的健康に与える影響. 平成 28 年度 科学研究費補助金 研究活動スタート支援 2016 Apr- 2018 Mar

【成人看護学分野】

13. 菊地史子(主任研究者). 緩和ケア病棟における終末期リハビリテーション導入体制確立に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2017 Mar

【がん看護学分野】

14. 佐藤富美子(主任研究者). 次世代型ケアを創出できる臨床看護師のリサーチマインドを育む教育プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究, 2016 Apr-2018 Mar.
15. 佐藤菜保子(主任研究者). 膵癌予後に関与するストレス応答分子 CRH の腫瘍組織における発現意義の解明. 日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 基盤研究(C). 2016 Apr-2018 Mar.
16. 佐藤富美子(主任研究者). 乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究. 平成 26 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(B)). 2014 Apr - 2018 Mar.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年度以降)

17. 佐藤一樹(主任研究者). 医療ビッグデータを用いた緩和医療の質評価および臨床課題の疫学調査方法の開発と測定. 平成 27 年度 AMED 委託研究開発. 2016 Apr-2019 Mar
18. 宮下光令(主任研究者). 認知症患者の Good Death. 平成 28 年度科学研究費(基盤研究(B)特設分野研究). 2016 Apr-2019 Mar
19. 宮下光令(主任研究者). がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立(国際共同研究強化). 平成 27 年度科学研究費(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)). 2016 -2019

20. 佐藤一樹(主任研究者). 終末期在宅療養推進のための在宅医療のあり方:Mixed Methods 研究. 平成 27 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2015 Apr-2018 Mar
21. 宮下光令(主任研究者). 進行がん患者の抗がん剤治療の目的の理解度と終末期医療に関する医師との話し合い. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2015 Apr-2017 Mar

【小児看護学分野】

22. 塩飽 仁, 佐藤幸子, 富澤弥生, 鈴木祐子, 井上由紀子, 三谷綾子:思春期青年期の発達障害の子供と家族の看護支援・成人移行期支援プログラムの開発, 日本学術振興会 平成 28 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)新規採択, 2016-2018
23. 後藤清香:文献検討とデルファイ法による小児がん患児の標準復学支援要領の試作. 北日本看護学会 研究奨励会 平成 28 年度奨励研究, 2016
24. 後藤清香:小児がん患児の標準復学支援要領の開発. 2016 年度公益財団法人がんの子どもを守る会 治療研究助成, 2016
25. 押切美佳:公益財団法人木村看護教育振興財団 平成 28 年度専門看護師奨学金助成, 2016

【精神看護学分野】

26. 吉井初美.早期精神病予防に関わる養護教諭主導型保護者に対する精神保健指導要項の検討. 日教弘本部奨励金. H28 年 4 月～H29 年 3 月
27. 吉井初美(主任研究者). 中国におけるがん患者家族のメンタルヘルスと不調関連要因の特定. 日中医学協会調査・共同研究助成. H28 年 4 月～H29 年 3 月
28. 光永憲香(主任研究者). 早期精神病性障害の初回入院患者に対する心理・社会的介入プログラムの開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2014 Apr - 2017 Mar.
29. 吉井初美(主任研究者).精神障害者を対象とした茶道教室普及活動.公益財団法人倶進会一般助成. 2015 年 10 月～2016 年 9 月

【周産期看護学分野】

30. 佐藤真理. フィリピン国における小児肺炎受診行動に対する父親の考えと課題, 松下幸之助記念財団研究助成金. H28.10～H29.10 (H28 年度)
31. 佐藤真理. 東日本大震災後の助産院における産後ケア提供の必要性和その効果の検討. 一般財団法人ヘルス・サイエンス・センター研究助成金. H27.11～H28.10 (H28 年度),
32. 佐藤真理. 日本母性看護学会平成 28 年度研究助成. 特別養子縁組を選択して子を産み託す母親に関わる助産師のケア. H28.4～H29.31(H28 年度).

【ウィメンズヘルス看護学分野】

33. 中村康香(主任研究者). 家族基盤に基づくコペアレンティングを促す妊娠期介入プログラムの開発と検証. 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2016 Apr- 2019 Mar.
34. 吉沢豊予子(主任研究者). 妊娠期における女性のキャリア形成過程を阻止する要因構造に関する研究. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽). 2015 Apr- 2017 Mar.
35. 跡上富美(主任研究者). 女性の妊孕力自己認識と卵巣予備能との乖離の予備調査. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽). 2015 Apr- 2018 Mar.

5-7. 外部資金獲得(分担研究) ※2016年4月～2017年3月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 丸山良子(分担研究者). 次世代型ケアを創出できる臨床看護師のリーサーチマインドを育む教育プログラムの開発. 平成 28 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2016 Apr - 2019 Mar.
2. 菅野恵美(分担研究者). 免疫制御を応用した慢性創傷の新規治療法の開発～NKT 細胞は炎症・治癒を支配する～. 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2016 Apr - 2019 Mar.
3. 菅野恵美(分担研究者). C 型レクチン受容体(Mincle)を介した DAMPs による創部炎症連鎖機構の解明. 平成 28 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2016 Apr - 2018 Mar.
4. 菅野恵美(分担研究者). Type I インターフェロン による慢性創傷の炎症 制御法の開発. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2015 Apr - 2017 Mar.

【がん看護学分野】

5. 佐藤富美子(分担研究者). 運動を中心とする乳がん治療関連リンパ浮腫セルフケアプログラムの無作為化比較試験, 日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 基盤研究(C). 2016 Apr-2018 Mar.
6. 佐藤菜保子(分担研究者). 乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2014 Apr - 2018 Mar.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年度以降)

7. 宮下光令(分担研究者). スピリチュアルケアを取り入れたアドバンス・ケア・プランニングの有効性の検証. 平成 28 年度科学研究費(基盤研究(B)一般). 2016 Apr-2019 Mar
8. 宮下光令(分担研究者). 高齢者ケア施設における看取りのケアパスの開発. 平成 28 年度科学研究費(挑戦的萌芽研究). 2016 Apr-2019 Mar
9. 宮下光令(分担研究者). 臨床倫理検討システムの哲学的見直しと臨床現場・教育現場における展開. 平成 27 年度学術振興会科学研究費(基盤研究(A)). 2015 Apr-2019 Mar
10. 宮下光令(分担研究者). 市民と専門職で協働する日本型対話促進 ACP 介入モデルの構築とエビデンスの確立. 平成 27 年度学術振興会科学研究費(基盤研究(A)). 2015 Apr-2020 Mar

【小児看護学分野】

11. 佐藤幸子, 塩飽 仁, 遠藤芳子, 今田志保:心身症・神経症児のための動画によるソーシャルスキルトレーニングツールの開発, 日本学術振興会 平成 28 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)新規採択, 2016-2018
12. 塩飽仁(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
13. 鈴木祐子, 分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
14. 井上由紀子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
15. 名古屋祐子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.

16. 塩飽仁(分担研究者). 災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.
17. 鈴木祐子(分担研究者). 災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.

【精神看護学分野】

18. 吉井初美(分担研究者). 子育て支援としての子育て期女性の健康指標の策定. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2017 Mar.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

19. 中村康香(分担研究者). ウェアラブル機器を用いた妊婦の身体活動の可視化による活動パターンと評価指標の検討. 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2016 Apr- 2019 Mar.

5-8. 外部資金獲得(その他) ※2016 年 4 月～2017 年 3 月
なし